

令和7年度 集落機能維持強化支援事業
実績報告書

令和8年3月31日

公益財団法人 えひめ地域活力創造センター

目次

1 はじめに	3
2 事業実施概要	3
(1) 持続可能な地域運営実践支援プラットフォーム運営事業	3
① プラットフォームの目標	3
② プラットフォームで実施した事業	3
ア 「地域づくり実践誘導」事業	3
●先進地研修派遣	3
○令和7年度先進地派遣実施状況(2か所)	4
○令和7年度研修派遣実施状況(1か所)	4
イ 「地域づくり課題解決」事業	4
●地域づくり課題解決勉強会&交流会	4
○令和7年度地域づくり課題解決勉強会&交流会実施状況(3回)	4
ウ 「地域づくりマッチング支援」事業	4
●地域×専門家マッチング支援(地域運営高次化コーディネート)	4
○令和7年度地域×専門家マッチング支援実施状況(3か所8回)	4
エ 「地域巡回相談」事業	5
●地域づくりモニタリング	5
○地域づくりモニタリング実施状況	5
●地域づくりアーカイブ	6
(2) 集落サポート人材育成事業	7
● 地域づくりマネジメント講座実施状況(2回)	7
(3) 元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業	8
● 元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業実施状況(13回延べ76名)	8
(4) 愛媛県集落支援員に係る業務	9
3 詳細報告	9
○プラットフォーム・先進地派遣	10
○プラットフォーム・地域づくり課題解決勉強会&交流会	31
○プラットフォーム・地域×専門家マッチング支援	38
○集落サポート人材育成・地域づくりマネジメント講座	49
○元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業	52

1 はじめに

令和7年度集落機能維持強化支援事業の「持続可能な地域運営実践支援プラットフォーム運営事業」「集落サポート人材育成事業」及び「元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業」の3事業については、委託契約、実施要領、個人情報取扱特記事項、その他関係諸法令に基づき、以下の体制により実施した。



2 事業実施概要

(1) 持続可能な地域運営実践支援プラットフォーム運営事業

小規模・高齢化が深刻化し、維持・存続が危ぶまれる集落が抱える様々な課題に対応するため、地域住民の主体的な地域づくりの取組に伴走しながら、集落の持続可能性を高める実効性のある手法に関する情報やノウハウを、各種団体と連携しながら提供する事業である。

① プラットフォームの目標

本事業が謳うプラットフォームとは、「持続可能な地域運営の実践を広く県内に普及させるための仕組み」であるが、それが本事業の実施のみで構築できるものではなく、事業の実施を通して地域課題の本質を浮かび上がらせ、関係者らが一緒に考えるフィールドを作り出し、さらに、県や市町の政策・施策への参考となる仕組みづくりも意識しながら、より実効性の高いプラットフォームの構築を目指して事業を展開した。

② プラットフォームで実施した事業

プラットフォームでは、次のア～エに掲げる事業を実施し、それぞれの内容を組み合わせて取り組むことで、県内地域運営組織(過疎地域等において複数集落で形成され、地域の課題解決に向けた取組みを実践している組織。以下「RMO」という。)の活動を支援しつつ、地域運営の現状をモニタリングしながら新たな支援策の検討などを行った。

ア 「地域づくり実践誘導」事業

● 先進地研修派遣

過疎地域等における地域づくりの担い手となる人材を育成するため、県内外の先進地や各種の地域づくり研修会等への派遣を行った。先進地派遣先との調整では各RMOの意向を最大限尊重しつつ、効果的な視察となるよう視点整理を行ったほか、実施後のレポート(アンケート)を通じて各地域での実践意向などを把握し、今後の支援策の基礎資料とした。

○令和7年度先進地派遣実施状況(2か所)

日付	派遣 RMO	派遣先	視察内容
R7.7.28(月) ～30(水)	嶺南ふるさと創生 プロジェクト	神奈川県川崎市 静岡県富士市、 伊豆市、沼津市	地域の農作物を活かした特産品開 発や観光振興への取り組み
R7.8.25(月) ～26(火)	横林自治振興 協議会	奈良県明日香村、 川上村	地域農作物のオーナー制度の活 用、移動スーパー、コミュニティナ ース等

○令和7年度研修派遣実施状況(1か所)

日付	派遣 RMO	研修先	参加研修等
R7.9.24(水) ～27(土)	かりとりもさくの会	埼玉県横瀬町	(一財)地域活性化センター主催「日 本一チャレンジする町で持続可能な まちづくり～地域おこし協力隊との 連携で地域を変える～」

イ 「地域づくり課題解決」事業

●地域づくり課題解決勉強会&交流会

複数の RMO が抱える課題の解決方法を検討し、組織活動の活性化を図るため、課題となるテーマに応じた勉強会&交流会を開催した。

今年度は、令和6年度に実施した勉強会&交流会の参加者アンケートも踏まえ、特に希望の大きかった「中間支援」を2回、「空き家管理」を1回テーマとして取り上げ実施した。

○令和7年度地域づくり課題解決勉強会&交流会実施状況(3回)

日付	テーマ	内容	参加者数
R7.5.23(金)	中間支援	行政と住民の間にある「中間支援組織」とは 場所:ゆりラボ(久万高原町) ※R7.2.7 に実施予定だったもの	12人 (定員10名)
R7.11.7(金)	中間支援	地域と人をつなぐ「伴走者」の在り方 場所:阿部邸ハルモニの家(宇和島市)	10人 (定員10名)
R8.2.10(火)	空き家管理	“惜しい空き家”の行末は? 場所:SAIJO BASE(西条市)	14人 (定員15名)

ウ 「地域づくりマッチング支援」事業

●地域×専門家マッチング支援(地域運営高次化コーディネート)

特定の地域課題を抱えるRMOと、それぞれの課題解決に対応する最適な外部専門家をコーディネートし、効果的な助言が得られるようカリキュラムやフィールドワークの調整、マーケットリサーチに資するフィールド紹介や企業との連携など、組織活動の高次化を支援した。

○令和7年度地域×専門家マッチング支援実施状況(3か所8回)

RMO名	専門家	内容	派遣日
遊子川もりあげ隊	NPO法人 Eyes コーディネーター 光野 達也 南予移住マネージャー 山口 聡子	集落づくり計画書の見直し、組織再編	第1回 R7.6.18(水) 第2回 R7.10.27(月) 第3回 R8.2.3(火) 第4回 R8.2.26(木)
NPO 法人 TEtoTE	一般社団法人をかしや代表理事 菊間 彰 JMRC 四国運営委員長 金井 宣夫	地域資源の発見と活用	第1回 R7.7.14(月) 第2回 R7.8.12(火) 第3回 R7.10.4(土)

RMO名	専門家	内容	派遣日
横林自治振興協議会	cuddle コーディネーター 長尾 愛理	地域産品のブランディング等	第1回 R7.8.19(火)

エ 「地域巡回相談」事業

●地域づくりモニタリング

RMOの形成・活動促進プロセスなどのモニタリングのため、行政やRMO、中間支援組織などに対し、個別訪問による巡回相談を実施し、新たなRMOの立ち上げ等に関する情報提供や、RMOの抱える課題やニーズを収集するとともに、当事業を活用した課題解決への誘導を行った。

昨年度同様に、農村RMOモデル形成支援事業の採択を目指す地域や、中間支援を目指す個人や団体等、新たなRMO形成やRMO活動のきっかけとなる可能性のあるものについて県内全域へと幅広く巡回し、地域づくり実践誘導事業や、地域×専門家マッチング支援事業への展開につなげた。

○地域づくりモニタリング実施状況

市町名	地域	団体名	主な活動
今治市	(共通)	(一社)をかしや	ファミリーーターとしての活動をヒアリング
西条市	(共通)	(一社)リズカーレ、NPO法人西条まちづくり応援団	中間支援組織としての活動をヒアリング
四国中央市	土居町関川	みらいの関川を考える会	中間支援組織としての活動、ワーカースコープ等をヒアリング
	金砂町嶺南	嶺南ふるさと創生プロジェクト	※先進地派遣参照
上島町	弓削	NPO法人弓削の荘	島外民交流拠点運営や高校生のまちづくり活動、RMO立ち上げに関するヒアリング
東温市	(共通)	—	空き家対策に関する動向をヒアリング
久万高原町	柳谷地区・西谷	NPO法人TE to TE	移住施策、空き家対策、移動支援対策に関する中間支援の動向をヒアリング
	(共通)	(一社)ゆりラボ	住民活動拠点や地域と高校生をつなぐ活動をモニタリング ※勉強会&交流会参照
	旧美川村 他	松山オートクラブ	モータースポーツと地域との関わりについてヒアリング
宇和島市	津島町岩松	NPOharmoni	中間支援組織の設立後間もない時期の課題等をヒアリング ※勉強会&交流会参照
八幡浜市	(共通)	NPO法人八幡浜元気プロジェクト	中間支援組織としての活動をヒアリング ※勉強会&交流会参照
大洲市	長浜町	長浜コミュニティセンター	地域コーディネーターの活動、地域と学校の連携等をヒアリング
西予市	明浜町狩江	かりとりもさくの会	※研修派遣参照
	野村町横林	横林自治振興協議会	※先進地派遣、専門家マッチング参照
	城川町魚成	魚成地域振興会	農村RMOに向けた状況ヒアリング
	城川町遊子川	遊子川もりあげ隊	※専門家マッチング参照
	宇和町多田	多田地域づくり活動センター	農作物の栽培等、学生との連携についてヒアリング

市町名	地域	団体名	主な活動
内子町	石畳	石畳つなぐプロジェクト	まちづくりの状況をヒアリング
	(共通)	ゲストハウス内子晴れ	旭館の再生等についてヒアリング ※地域づくりマネジメント講座参照
	小田深山	—	地域資源の活用等をヒアリング
	小田	—	地域づくりの動向についてヒアリング
愛南町	(共通)	ゲストハウスカイトク舎	農村RMOの状況等をヒアリング
	(共通)	一般社団法人 Umidas	地域経済活性化への取り組みについてヒアリング

※この他、各市町への事業説明、施策に関するヒアリングを実施(9市町)

内子町、西予市、愛南町、大洲市、四国中央市、今治市、上島町、八幡浜市、伊方町

●地域づくりアーカイブ

地域づくりの機運醸成を図るため、この事業の活動内容や活動に得られた成果を整理し、(公財)えひめ地域活力創造センター公式ウェブサイトに掲載しアーカイブ化した。

なお、アーカイブ資料は、次年度以降も引き続きウェブサイトで周知するほか、市町、RMO、集落支援員、地域おこし協力隊や、本事業にかかわった企業・団体等へ冊子として配布し、RMO実践支援についての理解促進と、事例の横展開を図りたい。

・ウェブサイトによるアーカイブ



・(公財)えひめ地域活力創造センター公式ウェブサイト URL
<https://www.ecpr.or.jp/>

(2) 集落サポート人材育成事業

人口減少や少子高齢化の著しい県内集落での集落機能の維持・強化を図るためには、地域の実情を把握し、それぞれの状況に見合った効果的な集落対策を推進できる人材の育成が不可欠であることから、市町職員や集落支援員を対象とした今後の集落対策の方向性等を学ぶための実践的な研修を実施し、今後の集落機能を維持する仕組みづくりをサポートするためのマネジメント能力の向上及び地域づくり関係者のネットワーク構築を図った。

● 地域づくりマネジメント講座実施状況(2回)

回	日付	場所	内容	参加者数
1	R7.11.20(木)	古民家ゲストハウス&バー 内子晴れ	<p>【講演】 「過疎地における、まちづくりのトレンドを語りあう」 地域経営・運営に欠かせない資源である「ヒト」「モノ」「カネ」に、維持・継続をするために必要な視点である「トキ」という視点を加え、講師陣による事例紹介や、これからの在り方についてお話を伺い、参加者がそれぞれの活動を整理・要約・構造化し、次の一手を考える機会とする。</p> <p>【メインスピーカー】 総務省地域力創造アドバイザー・愛媛県集落支援員 鍋島 悠弥</p> <p>【フロントランナー】 古民家ゲストハウス&バー内子晴れオーナー 山内 大輔 西予市横林自治振興協議会 周藤 功治</p>	14名
2	R8.2.19(木)	霧の森交湯～館 (四国中央市)	<p>【講演】 「ふるさとを守り、デザインする！地域の夢の描き方～四国中央・新宮編～」 人口減少社会における公民館を軸とした地域づくりの方法や心構えについて、講師からの基調講演や、参加者との意見交換を通じて、意識やベクトルを揃えることや、地域での実践方法を学ぶ機会とする。</p> <p>【メインスピーカー】 総務省地域力創造アドバイザー・愛媛県集落支援員 鍋島 悠弥</p> <p>【ゲストスピーカー】 島根県益田市 地域プロジェクトマネージャー 石田 貢三</p>	41名

詳細は p49～p51を参照

(3) 元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業

地域活動の担い手が不足している集落を支えるため、センターに当該事業を実施するための事務局を設置し、「元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業実施要領」に基づき、祭りや清掃等などの活動の支援を希望する集落と、ボランティア活動で応援したい企業・大学等(元気な集落づくり応援団)とのマッチングを行い、関係人口づくりを支援した。

● 元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業実施状況(13 回延べ76名)

	日付	場所	応援内容	応援団体名	応援者数
1	R7.5.31(土)	松山市久谷地区	第4回松山くぼの町ホテル祭り運営補助	(株)愛媛銀行 聖カタリナ大学 ネコの手	10名
2	R7.6.29(日)	西予市城川町 池野々地区	彩りの丘の草刈り作業	(株)伊予銀行 (株)愛媛銀行 聖カタリナ大学 ネコの手	10名
3	R7.8.3(日)	愛南町中浦 中の谷地区	中浦夏まつりの会場設営及び販売補助	(株)伊予銀行	2名
4	R7.8.9(土)	四国中央市新宮地区	新宮夏まつり盆踊り会場準備	聖カタリナ大学 ネコの手	3名
5	R7.8.10(日)	四国中央市新宮地区	新宮夏まつり盆踊り会場準備	ネコの手	1名
6	R7.8.11(月)	四国中央市新宮地区	新宮夏まつり盆踊り片付け	ネコの手	2名
7	R7.8.14(木)	内子町寺村集体	寺村山の神火祭り会場準備	聖カタリナ大学 ネコの手	2名
8	R7.8.15(金)	内子町寺村集体	寺村山の神火祭り駐車場整理	(株)伊予銀行 ネコの手	2名
9	R7.8.16(土)	内子町寺村集体	寺村山の神火祭りの片付け	ネコの手	2名
10	R7.8.30(土)	西予市城川町 池野々地区	彩りの丘の草刈り作業	(株)伊予銀行 (株)愛媛銀行 ネコの手	6名
11	R7.10.12(日)	久万高原町 西谷地区	合格祈願ウォーキングの運営サポート	(株)伊予銀行 (株)フジ・アグリフーズ ネコの手 三浦工業(株)	8名
12	R7.10.19(日)	伊予市双海町 大久保本谷集落	植樹した桜周辺の草引き活動	(株)伊予銀行 (株)フジ・アグリフーズ 聖カタリナ大学 ネコの手 三浦工業(株)	13名
13	R8.3.15(日)	伊予市双海町 大久保本谷集落	桜の植樹、側溝清掃及び伐採竹等の撤去作業	(株)伊予銀行 川原塾 ネコの手 三浦工業(株)	15名
-	中止	四国中央市 嶺南地区	芋掘り体験の補助 (中止の理由) 猛暑等の天候不順による芋の生育不良のため	-	-

(4) 愛媛県集落支援員に係る業務

この事業を円滑に遂行するため、愛媛県が指定(委嘱)する愛媛県集落支援員と密に連携を図りながら事業を遂行した。

- 定例ミーティング・個別相談等(41回)

定例ミーティング:7回(4/17、5/22、7/3、9/11、10/15、1/8、3/12)

個別相談等:34回(4/2、4/8、4/11、4/22、5/20、5/23、6/18、7/2、7/22、8/1、9/1、9/9、9/11、9/29、10/9、10/10、10/11、10/17、10/27、10/30、11/5、11/10、11/13、11/20、12/5、12/9、12/10、1/5、1/29、1/30、2/3、2/25、2/26、3/12)

- 地域づくり課題解決勉強会&交流会での活動(1回)

・勉強会&交流会(5/23) テーマ:中間支援 パネリストとして

- 集落サポート人材育成事業

・地域づくりマネジメント講座(2回) メインスピーカーとして

3 詳細報告

次ページ以降で各事業の詳細を報告する。

○プラットフォーム・先進地派遣

日付	派遣 RMO	派遣先	視察内容
R7.7.28(月) ～30(水)	嶺南ふるさと創生プロジェクト	神奈川県川崎市 静岡県富士市、伊豆市、 沼津市	茶畑を活用した観光振興、クラフトビールを活用した地域づくり

1 概要

(1)行程

【1日目】

- 4:10 センター出発
- 7:35 高松駅着
- 9:25 高松空港発
- 10:35 羽田空港着
- 11:40 JR川崎駅着
- 13:50 T.T BREWERY
中島工場、
T.T BREWERY
川崎チネッタ
通り店、大衆酒
場寺田麦酒醸造
所川崎駅前店視
察

17:20 関内駅着

【2日目】

- 8:00 関内駅発
- 10:20 大淵笹場
「富士山の茶の間」視察
- 14:20 ベアードブルワリーガーデン修善寺、リパブリュー沼津、MASTERS BREWING 視察
- 20:50 関内駅着

【3日目】

- 8:35 関内駅発
- 11:25 羽田空港発
- 14:00 高松駅着
- 17:40 センター到着

(2)内容

【1日目】

初めに T.T BREWERY 中島工場を訪問し、(株)リープ社長寺田統威氏を交えて嶺南ふるさと創生プロジェクトが依頼していた茶葉を使用したクラフトビールの試飲と、今後の納品予定、納品数等について打ち合わせを行った。

その後、T.T BREWERY 川崎チネッタ通り店及び大衆酒場寺田麦酒醸造所川崎駅前店を訪問し、T.T BREWERY が開発しているビールの試飲を行った。

- ・茶葉の量を変えて漬け込んだ4種類のエールを試飲する(16g、32g、108g、144g(/18ℓ))。
- ・通常、フレーバーは漬け込んで抽出する(ホップの煮沸中に入れると香りが飛ぶため)。茶葉を煮出して開発することも可能だが、今回は見送る。
- ・茶葉の量を増やすとえぐみや濁りが出る可能性があるが、これを特徴として活かすこともできる。
- ・緑茶のクラフトビールは存在するが、余り実例がない(事例：愛知県のまちづくり課がPR用として開発)。また、ゲームとのコラボレーション企画による開発依頼もあった。
- ・ラガーでの開発は差別化が難しいため、今回はエールでレシピを作成した。



- ・沈殿しやすいものは難しいが、香りの出る原料(紅茶や緑茶等)は相性が良い。リストを送付してもらえれば、費用内で開発可能。ほかのところでは、自然薯を使用したビール、塩ビール(三重県)、鯉節、梅を使用したビールもある。
- ・原材料を売るより、ビールとして加工・販売したほうが、利益が上がる。
- ・ノンアルコールビールは製造していない。
- ・1樽単位で月曜日と木曜日に1種類のみビールを製造している。
- ・1樽：16,500円(税別)、レシピ開発費：2,500円(税別)、送料3,500円程度(クール便で樽ごと配送)。なお、レシピ開発費は、次回以降もう少し安くなる。
- ・注文から約2週間で納品可能。
- ・製造から3ヶ月間は品質が保たれる。
- ・アサヒのサーバーが使用可能ではあるが、樽を保冷するバッグが必要。
- ・瓶・缶どちらも製造可能だが、缶は始めたばかりのため、開発時は要相談。
- ・協議の結果、茶葉を108g(/18ℓ)使用したレシピで製造を依頼する。
納品予定…1回目：1本(完成次第発送)、2回目：2本(9月11日頃)
- ・9月13日(土)の試飲会では、アンケートを実施する予定。
- ・将来的にホップの自家栽培も検討しているが、課題がある。
⇒生ホップが3kgあれば薄くはなるが、製造可能。
- ・開発したビールが定着してきたら、ビールの種類や茶葉の種類を変えることも視野に入りたい。
- ・寺田社長からは、自身がクラフトビールに係わった経緯等を話され、クラフトビールの開発は初期費用と1回の製造量がとても多く、新規開発しにくい。開発のハードルを下げるために小ロットで依頼を受けている。マイナーチェンジの場合も、費用を抑えることができるので、協力していきたいと話された。
- ・雑談の中で、菊池氏、大西氏から販売するまでにはいかないが、個人では消費しきれない量を各家庭で農作物を作っている。特にしいたけを大量にもらい消費に困っているという話があると、寺田氏から可能なら買い取りたいこと、フレーバーのひとつとして開発してはどうかと提案があり、検討することになった。

【2日目】

初めに、大淵笹場(静岡県富士市)に訪問し、そこで取り組まれているプライベートティーテラス「茶の間」の視察をした。

案内していただいた従業員からは、自分は地元出身なので、この風景は当たり前だったが、都内の人は喜ぶこと、外国人に人気であるが、夏場は富士山に雪が積もっていないので、来客数は少ないこと、茶の間は3カ所あるが、木陰が一番人気であること、提供するお茶請けは、地元の洋菓子店から提供されていること等の話を伺った。

体験すると、虫が少なく想像以上に涼しいこと、住宅街から少し離れているため、生活音がほぼ聞こえないこと等を話し、これを嶺南地区に取り入れるとしたらどうすればいいか等の意見交換を行った。

次に、ベアードブルワリーガーデン修善寺、リパブリュー沼津、MAS TERS BREWINGを訪問し、各ブルワリーの規模や雰囲気、運営等を視察した。また、各ブルワリーの視察を通じて、嶺南地域やその周辺の地域を巻き込んで取り組める事業や県内各市町の特産品を使用したクラフトビールの開発、クラフトビールの提供方法等について意見交換を行った。

2 参加者

四国中央市嶺南ふるさと創生プロジェクト 菊池 睦(元地域おこし協力隊)
 〃 大西 夏子(事務局兼嶺南公民館主事)
 (公財)えひめ地域活力創造センター 地域づくりGアドバイザー 池田 桃子

実施の様子



参加者アンケート

RMO名	嶺南ふるさと創生プロジェクト
参加者(回答者)氏名	菊池 睦
Q1 今回の先進地派遣先で学べたものを教えてください。	
<p>現在、様々な地域で地域特産品として製造されている地ビールについて、その製造工程やロット数、コスト感などについて知ることができた。また、使用する副素材でまったく違う味になることなど、様々なバリエーションが作れるため、他の地域で先行して出来上がっているものとまったく同じものができあがるということにはならないと感じた。</p> <p>茶畑ウッドデッキでは、収穫シーズン以外にはあまり注目されない敷地を有効に活用していると感じた。お土産品など、様々な収入を得ていて、うらやましかった。</p>	
Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせると思ったものを教えてください。	
<p>地ビールは味付けの方向性も見えてきたため、最初の完成は近いと思う。その後は、販売方法や流通についてと同時に、ビールの味のバリエーションも考えていけると学んだので、思いもよらないような素材を活用してみたいと思う。</p>	
Q3 先進地と比べて、自らの地域(での活動)の方が優れているものを教えてください。	
<p>今のところ、残念ながらないと思う。</p>	
Q4 今回のご感想など自由にご記入ください。	
<p>非常に費用のかかる部分を負担していただき、濃密な視察研修を行うことができた。たいへんありがたかった。この視察を無駄にすることが無いよう、地域にフィードバックしていきたい。</p>	

RMO名	嶺南ふるさと創生プロジェクト
参加者(回答者)氏名	大西 夏子
Q1 今回の先進地派遣先で学べたものを教えてください。	
<p>情報社会において、いかに自分たちの地域やお店をアピールし、多くの人に目を向けてもらえるか。いかにして集客へと繋げるか。というアピール力の大切さを感じた。交通の便が悪くても魅力があれば来てもらえるのでは？あとは地域の人とどのように嶺南の魅力を発信し、足を運んでもらえるかということが大切だと感じた。</p> <p>また、クラフトビールはすごく奥が深くおもしろい。まずは試飲会を無事開催し、今後の販売の経路や活用方法等課題は多いが、一歩ずつ進んでいきたい。将来的に愛媛県下のご当地クラフトビールセット(南予版・中予版・東予版)を作成できたらおもしろいのかな？と思った。</p>	
Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせると思ったものを教えてください。	
<p>嶺南には美しい景色がいっぱいある。その風景を無くさないよう自然を守り続けることが1番大切だと思う。自然を売りに川沿いや湖畔・山間部で自然満喫セットを販売できるのでは？と思う。一個人ではできないので、住民の有志や団体等が率先して取り組めるよう体制を整えるお手伝いから始めたい。</p> <p>また金砂湖は全国的にブラックバスの名所となっているので、それを活用するののも一つの手ではないかと思う。ただブラックバスからどのように活性化に繋げていくかはバス釣り好きの方に相談しながら進めていかなければならない。</p>	
Q3 先進地と比べて、自らの地域での活動の方が優れているものを教えてください。	
<p>観光客の方たちが気分よく観光できるよう、あじさいのシーズンにおいては草刈り作業を積極的に行っている。残念ながら今の嶺南地域は高齢化率が80%を超えており、なかなかこれをやってみよう！と思う年齢ではなくなってきている。また比較的若い世代のイベント等の参加率がかなり低いので、現役世代も積極的に協力できる地域づくりが必要ではないかと感じた。</p>	

Q4 今回のご感想など自由にご記入ください。

都会の満員電車で揺られながら、私には田舎の方があっているとよくわかった。公民館主事としてあとどれくらい携われるかはわからないが、きちんと道筋を残せるよう私のできる限りのことはしたい。次の主事になっても嶺南の自然や伝統を守り続けてもらえるよう、そして地域一体となり活性化に繋がるよう日々努力あるのみ。

アドバイザーレポート

(公財)えひめ地域活力創造センター 地域づくりグループ アドバイザー 池田 桃子

茶葉を活用したクラフトビール製造の現場では、原材料の配合比率や過去の開発事例について、派遣者が製造事業者と熱心に協議を重ねていた。特に、現地で試飲を行いながら直接対話できたことは、その場で具体的な課題を洗い出し、今後の開発の方向性を明確にする大きな収穫となった。また、観光資源を活用した体験スポットの視察においても、派遣者同士が「地域へどのように成果を還元できるか」という視点で意見交換を行っていた。

通常、視察中は受け入れ先の説明が中心となりがちだが、今回は派遣者のみで自由に議論する時間を確保できたことで、現場での気づきや疑問がその場で深掘りされた。今後は、行程内に派遣者間の意見交換の機会を意図的に設けることで、現場の熱量を逃さずに先方へ確認を行い、各自の考えをより深められる仕組みづくりが必要である。

一方で、派遣者の関心が「クラフトビール」という特定の枠組みに偏った結果、他の優れた開発事例を紹介する機会を逃し、派遣先でも運営責任者レベルとの深い対話が不足する事態を招いた。これは事前のモニタリング不足や取り組みに対する思い込みが原因である。今後は派遣の趣旨と派遣者のニーズに齟齬が生じないよう、事前に綿密な協議と調整を行い、より多角的な視点から地域活性化に資する派遣事業へとブラッシュアップしていくことが求められる。

○プラットフォーム・先進地派遣

日付	派遣 RMO	派遣先	視察内容
R7.8.25(月) ～26(火)	横林自治振興協議会	奈良県明日香村、川上村	地域製品のオーナー制度を活かした販路拡大、地域内循環経済の仕組みの視察

1 概要

(1)行程

【1日目】

- 8:00 センター出発
- 9:40 松山空港発
- 10:30 伊丹空港着
- 11:30 伊丹空港発
- 13:00 奈良県明日香村着
食事
- 14:00 一般財団法人明日香村地域振興公社着
視察
- 16:00 奈良県明日香村発
- 17:00 川上村(ホテル杉の湯)着 宿泊



【2日目】

- 8:30 ホテル杉の湯発
- 8:50 一般社団法人かわかみらいふ着 視察
- 12:30 川上村発
- 14:00 昼食
- 16:00 伊丹空港着
- 18:00 伊丹空港発
- 18:50 松山空港着
- 19:30 センター着

(2)内容

【1日目】

- 受入先：一般財団法人明日香村地域振興公社 幸脇 和弘 氏
奈良県高市郡明日香村に所在する一般財団法人明日香村地域振興公社を訪問し、オーナー制度の実施状況等についてお話を伺った。
冒頭に同社担当の幸脇氏から横林のイメージについて、HP等で見て色々なことにチャレンジするチャレンジ精神を感じたとのコメントがあった。

○明日香村のオーナー制度について

→景観を村外の人を借りて守ることを目的に30年ほど前に導入された。

○原木しいたけのオーナー制度では、料金体系はどうすれば良いか？(周藤氏)

- 体験もオーナー制度の中に組み込むことで、単なるイベントに留まらず、技術承継も行える形が良いのではないか。
- 明日香村では積極的にはPRしていないが、チラシ、雑誌の他口コミやリピーターがメイン。現状は、募集した区画はほぼ埋まっている。
- 高齢化、人手不足が進んでおり、拡大するには限界を感じている。
- 棚田のトラストコースは今年から実施。棚田のオーナー制度で最もライトな仕組み。運営資金を稼ぐためにも人集めは必要なのが実態。
- 会費で十分に経費を賄っている状況であり、高いとの声もこれまでのところ聞いたことはない。

- どのような人が参加しているのか？(周藤氏)
 - 大阪、奈良県内等近隣居住者が9割ほど。その他東京が少しばかり。汗を流してもらって一緒に仕事をしてもらうのが重要だと考えているので、必然的に近隣の県の住民に偏ってくる。
 - 65歳以上が半数、30～40代が残り。前者は明日香村を守りたいとの当初の思いを抱いている人がずっとオーナーになってもらっている。後者は、子どもの教育の一環として子育て世代がオーナーになってくれている。
 - 複数年オーナーになってくれている人が多い。
 - 稲作は明日香村のオーナー制度の中で最も手間がかかる。本気で考えてくれている人が多い。
 - 以前は、飛鳥という土地柄、歴史的背景にも関心を持ってくれる人が多かったが、今はそれほど多くはない。
 - 天候との兼ね合いはどうしている？不確定要素なのではないか？(周藤氏)
 - オーナーになってもらう人はそもそも天候や汚れ仕事、しんどい仕事であることを理解している。天候等による不作は受け入れてもらっている。
 - 田の所有者である地元の農家からは、オーナーで、作業時に欠席者がいると怪訝な顔をする人もいる。一緒に汗を流して働きたいとの思いがある。
 - 本当のリアルを体験してもらいたいが、不作で収穫量が0になる事態は避けたい。
 - 宿泊費等の費用負担はどうなっているか？(清水氏)
 - 宿泊や旅費は各自の負担となっている。
 - 移住者について
 - これまでの30年間で移住者は10人いるかどうか。本当の思いは、オーナーに移住してきてもらいたいが、つながっていない。とりあえず交流人口が増えるだけでも良いと考えている。ただ、今後は移住者が増えないと農家の数も減少しており、制度維持が厳しくなってくる。
 - 稲作以外のオーナー制度について
 - 野菜のオーナーは貸農園に近いイメージ。オーナーと農地提供者である農家とのコミュニケーションはあるが、農家が栽培等に関与することはない。鳥獣害対策等基本的な支援のみ行う程度。
 - オーナー制度として年越しするような作物は向いていないと思う。制度が少し複雑になるのではないと思う。
 - みかんの一本木オーナーが人気。12,000円/口と気軽に始められ、参加回数も年に2回程度と少ないため。以前は抽選だったが、毎年申込しているオーナーが外れることもあり、先着順に変更している。
 - 農家はボランティアで農作業をしているのか？(清水氏)
 - オーナーから日当をもらっている。完全にボランティアでやるのはモチベーションも上がらず、制度維持は難しい。
 - 企業等との関わり
 - 企業、団体にも参画してもらっている。特別な制度ではなく一般オーナーと同列。福利厚生の一環として農業体験のプログラムを用意していると考えられる。地元以外の企業が多く、地元の企業の参加がないのが課題。
 - その他
 - 制度は後から値上げするのは難しいため、最初から利益を加味した金額設定するのが望ましい。
 - 情に訴えるストーリー性が大事になる。現実もしっかり伝えた方が良い。
 - 会費はオーナーから同社を介さず直接農家に支払われる。同社は手数料として5%程度を受け取っている。
- 周藤氏、清水氏からはちょうどオーナー制度の検討を始めたタイミングで、タイムリーにお話を聞いて良かった。制度設計の際に生かしていきたいとの言葉があり、1日目の視察は終了した。

【2日目】

- 受入先：一般社団法人かわかみらいふ 事務局長 三宅 正記 氏

奈良県吉野郡川上村に所在する(一社)かわかみらいふを訪問し、移動スーパーやコミュニティナースについて視察を行った。

まずは、施設内で川上村や(一社)かわかみらいふについての説明を受けた。

○川上村について

現在の人口は1,000人程。元々林業が盛んな地域でピーク時には8,000人程が暮らしていたが、林業の衰退から人口は減少。さらに2か所のダムが村内に建設され、旧中心部がダム湖に沈んだこと、村外に出た親族からの呼び寄せ等もあり2018年には人口減少率全国1位となった。そこからいくつかの施策により現在37位まで改善している。

○三宅氏よりかわかみらいふの説明

視察については、少し高いホテル「杉の湯」での宿泊を前提としたり、視察料を徴収したりとあえてハードルを上げている。取り組みが全国的に取り上げられて以降、単なる旅行とも思えるような視察者も多く来る中で、限られたヒト、時間を奪われるのは嫌だったため。

従業員は村内居住を条件としており、70代までの方が在籍している。地元の高齢者の労働場所としても有効に活用されている。

○かわかみらいふ立ち上げの経緯

川上村で生活するにはスーパーが不可欠。しかし、設立以前は移動スーパーが村の入り口までしか来ず、村の奥の住民には恩恵がなかった。そこで行政主体で支援を検討始めたのがきっかけ。その後、村内唯一のガソリンスタンドが後継者不在で廃業の危機にあったためかわかみらいふが事業を承継。現在、かわかみらいふでは①移動スーパー、②生協宅配、③ガソリンスタンドの3事業を展開している。

行政主体で事業を行っているが、理事長は村民から選任され、村民主導で動いている。組織自体は、副理事長に村長、理事に社会福祉協議会、各区長、吉野スーパー、生協、燃料の仕入れ先等利害関係者を入れている。

○各事業について

・コミュニティナースについて

→当初は、コミュニティナースとしてではなく、移動スーパーの同行で訪問看護を開始した。

今も形は変わっていないが、それが一種のコミュニティナースとして見られるようになった。治療は行わず、医療的な助言を行うのみ。早期に病院に行くことをアドバイスしており、深刻化する前に病院に行くことで医療費の削減にもなっている。

→救急に関する講習を当社スタッフも受けることで、救急車が到着するまでの時間、スタッフが患者のケアをすることも可能になっている。

→認知症の高齢者の様子を離れた家族とSNSで共有するサービスを有償で提供。手厚いサポートが必要な方へのサービスを有料とすることで、周辺住民にも気兼ねなくサポートできるようになった。

・ニコニコ号事業

→移動支援。集落と国道のバス停を結ぶ無償輸送事業。集落が国道のバス停から離れている場所が多いことから始めた。

→地元のタクシー業者からは反発があった。ただ、その業者も高齢化しており、後継者も不在。将来の課題解決には必要であり、事業を開始。

・曜日市

→元々地域おこし協力隊が個人でしていたものを当社が承継。道の駅で自家栽培した農作物を販売。現在は休止中。

・移動スーパー、生協宅配

→各集落には週1回訪問するようにルートを設定。1世帯しかいないような奥の集落にも訪問している。

→当初は流行らなかった。不便とはいってもそれまで生活できており、住民の生活リズムができていた。ただ、徐々に浸透してきており、活用してもらっている。

→単なる販売場所ではなく、コミュニケーションの場となっている。地元の人との交流の場、地域おこし協力隊が同行することもある。

→この事業は間違いなく赤字になるもの。他に薦められるような事業ではない。福祉の一環とすることで存在意義を見出してきた。

→村からも運営の支援は受けており、40百万円程を受け取っている。

- 生協についても赤字は必至。移動スーパー同様に福祉に注力することで住民に喜んでもらっている。
- 訪問時に住民からいただくおもてなしは最大限受けている。行政では、特定の人からのモノの受け取りは厳禁だが、民間だからこそ思いを受け取ることができるのは強み。
- ・ガソリンスタンド
- 元々赤字ではなく、唯一の黒字事業。会計処理は独立させている。利益は住民のみ値下げするような形で、地域内に還元している。
- 燃料仕入れ業者からジェット燃料も仕入れることができる。空港のない奈良県で唯一であり、防災ヘリ、県警ヘリへの燃料補給による災害時対応も可能となっている。
- ・施設について
- 当初から避難所としても使えるコミュニティセンターとして整備された。ただ、以前は常に施設されており、年に数回祭りの時などしか使われていなかった。
- 当社スタッフが常駐し、誰かが施設内にいる状況。カフェスペースもあり、住民も使いやすくなった。
- 質疑応答
- ・法人格をどうするか悩んでいるが、どうして(一社)にしたのか？(周藤氏)
- 資本金が足りない、商売を行って自由に利益を出せる、人の集まりで事業が行える等の観点から一般社団法人を選択した。(株)も検討したことはあった。
- ・赤字の補填はどうしているのか？(周藤氏)
- 集落支援員制度等様々な制度を活用している。自らでできることを最大限行いながら、それでも足りない部分について村にお願いしている。必要性をいかに村に訴え、理解してもらえるかが重要になる。
- ・国等からの支援情報はどのように得るのか？(清水氏)
- 基本的にはインターネットから得ている。ただ、漠然と補助金で調べるよりは、事業に応じてピンポイントで検索した方が情報の精度は上がる。また、行政とのやり取りの都度情報交換することも大事。
- ・コミュニティナースの人はどんな属性？(清水氏)
- 役場の健康福祉課に属する人。以前は村から出向されて当社で働いている人もいたが、人線りが見つからないことがあった。現在は、村から来てもらうことで人材の調整を行ってもらっている。
- ・施設の使用料はどうなっているのか？(清水氏)
- 基本的には無料でできるようにしている。営利目的の場合のみ、使用料を取ることもある。

- その後、移動スーパーの車両が帰ってきたタイミングで、車両の見学及び実際の移動スーパーの様子を同行して視察した。
- 今回の移動スーパーには実際の販売車の他、行政職員(コミュニティナースの車)、予備車の計3台が同伴。複数車で移動するのは、地元の人とのコミュニケーションをしっかりとつつも、万一の事態に対処すること、遅延によって他の地域の人に迷惑をかけないようにするため等の理由がある。
- ・車両は少し大きめの車に更新したところ。冷蔵庫を入れたり、楽に買い物ができるようにしたりするため、少し背の高い車を導入した。
- ・車両内のレジは吉野スーパーの店舗と全く同じものを積んでいる。
- ・毎週決まった時間に決まった場所に行くことで、住民の生活の一部に入り込むことができた。住民の情報を社会福祉協議会や行政とも共有することで、施設の入居情報をキャッチし安否確認と結びつけている。
- ・スーパーと生協のすみ分け
- スーパーは生鮮食品、自身で自由にお買い物をする楽しみ、交流の場
生協は生もの以外、お酒や水、米などの重いモノの宅配
当社は、地域における雇用の創出の役割を担っている。
- 移動スーパー視察後、当社三宅氏からは以下の話があった。
- ・通販でも翌日配送システムは、川上村においても実現している。ランニングコストがかかる中で、本当に移動スーパーを今後も継続させるかは、存続を前提とせず検討していきたい。

- ・儲けを重視してしまうと失敗してしまうこともある。あくまで村民第一に、村民が何を望んでいるかをよく考える必要がある。民間との協力体制が構築できると心強い。
- ・コストに見合う価値をいかに提供できるか。単なるコスト削減はサービスの低下にしかならない。

○川上村での視察を通して

川上村には、飲食店がほとんどなく1日目の夕食については車で30分ほど走って近隣の街に行く必要があった。決して生活がしやすい場所ではないが、地理的には横林とよく似ており、そのような場所が地域内で経済を循環させる仕組みを整え、維持していることに感心していた。一部のシステムだけでも横林で取り入れてみたいと話し、今回の視察は終了した。

2 参加者

横林自治振興協議会 (西予市政策課企画部政策推進課課長補佐) 周藤 功治 氏
 // (地域任用職員) 清水 みほ 氏

(公財)えひめ地域活力創造センター 地域づくりGアドバイザー 植田 祥健

実施の様子



参加者アンケート

RMO名	横林自治振興協議会
参加者(回答者)氏名	周藤 功治
Q1 今回の先進地派遣先で学べたものを教えてください。	
<p>(奈良県明日香村：「あすかオーナー制度」)</p> <p>○オーナー制度1つをとってみても、事業を実施する上での目的とコンセプトの大切さ、メッセージ性の重要性を改めて感じました。(※「村の風景を守る・景観を守る手段」)</p> <p>→30年経過し、当初は、オーナー＝地元の関係から、地元の継続的な負担も発生している。継続していく上での課題も学ぶ点がありました。</p> <p>○リピーターが絶えない取組。日常のリアルを提供する大切さ。</p> <p>【奈良県川上村：「かわかみらいふ」】</p> <p>○一般社団法人かわかみらいふの取り組みは、とても勉強になりました。村長、村議、村民、みんなが必要とする事業ってなかなか無いように思います。効率や費用対効果が叫ばれる昨今、自分たちに何が必要なのかを見据え、そこに限られた資源を投入し、『無駄ではなく必要な事』として共有し、そのメッセージにまたUIターンを含め、人が集まってくる仕組み。</p>	
Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせると思ったものを教えてください。	
<p>○地域農産物を活用したオーナー制度は、今年度から取組に向け動きたいと思います。</p> <p>○買い物支援事業(※横林にも店舗が2つあり、その内の1つは行商も行われています。またコミュニティナースもおられるので、横林スタイルの取り組みを構築したいと思います。)</p> <p>○村から委託を受けての移動支援については、横林でも現在、「地域の足」を検討しており、川上村よりもさらに提供範囲の広いサービスを構築したい。</p> <p>○買い物支援については、夏休み中という事もあり、地元の高校生も関わっていた。横林地域でも、イベントに限らず、高校生も地域づくりに参画できるような取り組みを進めていきたい。</p> <p>○ならコープと連携した宅配事業については、当地域内店舗との兼ね合いも考慮し、地域にメリットがありそうなら取り組みは可能。</p>	
Q3 先進地と比べて、自らの地域(での活動)の方が優れているものを教えてください。	
<p>○村が出資した法人ではなく、地域運営組織が中心となって、「かわかみらいふ」的な活動に取り組もうとしているところです！まだ何もできていませんが。</p>	
Q4 今回のご感想など自由にご記入ください。	
<p>○みんなの大切な暮らしを継続可能なモノにするためには、『かわかみらいふ』的な活動、事業展開が必要と強く感じておりましたので、今回の研修で派遣いただき、実際に人に触れ、実践者から直接お話を伺えたのは、本当に貴重な経験となり、また深い学びが得られたと感じています。</p> <p>人が生きるといふこと、充たされた暮らしというものが、何なのかも含めて、改めて考えさせられる研修にもなりました。今後の自分たちの地域に、今回の研修を必ず生かしていきたいと思っています。</p>	

RMO名	横林自治振興協議会
参加者(回答者)氏名	清水 みほ
Q1 今回の先進地派遣先で学べたものを教えてください。	
<p>○「かわかみらいふ」：村民を大切に。村民が川上村で暮らし続けることができるように。という思いのものと活動</p> <p>○買い物支援(移動スーパー)、宅配(ならコープ)・ガソリンスタンド事業・ふれあいセンター管理事業などを中心に活動。移動スーパーなどは単なる物資提供ではなく、看護師、保健師、歯科衛生士など健康面や、運転手以外にもサポーターがつき(非常勤の地域住民の方)、村民とのコミュニケーションを通して見守りも担っている。</p>	

○買い物支援だけで考えると赤字ではあるがそれには変えられない見守りコミュニティを重きに。
 ○「川上村の今」に必要な様々な補助金を活用し充実した活動をされている。
 ○「かわかみらいふ」「市役所」「社協」横のつながりがすごいと感じた。③地域活性化に向けた子どもの役割を考えること。
 ④地域全体が同じ方向性を持つこと。
 ⑤行政の考え方も変えていく努力が必要なこと。
 ⑥目的達成に向けた組織体制の在り方。
 これらを本会で深く審議する必要があると感じた。

Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせると思ったものを教えてください。

○横林も地元の高校生や大学生がいろんなWSや夏祭りなどに積極的に参加してくれたり、お手伝いしてくれたりしている。村の会社ができてアルバイトとして頑張ってくれる地元の若者がいたら、触れ合った地域の方へ元気をとどけてくれると期待します。また、かわかみらいふの職員さんのように地元住民がパート・アルバイトで仕事することで、対応される側も知った人で安心でき、また仕事する方(高齢者)も仕事が「生きがい」や「元気」につながるのは、地域皆がいい状態になるのでいいなと思った。どんな感じの会社にするかで雇い方とか変わってくるから、このやり方が生かせるかは分からないが。

Q3 先進地と比べて、自らの地域(での活動)の方が優れているものを教えてください。

○色んな場の視察に行かせていただくと学ぶことも本当に多くあり、新しく一歩踏み出して、横林で、みんなが安心して暮らせるようになったらいいなと現在も話し合いや視察を重ねています。そんな時感じることは、地域の方の協力的な態度です。WSがあったりすると「関係ないけんてん」ではなく、「まあ出とかないかんやろ」と、またお試し協力隊で農家さんに受入依頼しても「なんにもできんけど…」といいながらも受けてくださったり、そんな人の良さは他の地域にも負けてないと思います。今の横林カラーでみんなが住みやすい山になったらいいなと思います。

Q4 今回のご感想など自由にご記入ください。

○出張(視察)など慣れていないため、とても貴重な視察でしたありがとうございます。
 かわかみらいふで感じた「出来たらいいな、こんな事。」を少しでも多く横林カスタマイズして活用できたらと思いました。
 ○最後になりましたが、植田さん、視察中の運転や案内ありがとうございます。おかげさまで、安心して視察できました。また今後ともよろしくお願いします。

アドバイザーレポート

(公財)えひめ地域活力創造センター 地域づくりグループ アドバイザー 植田 祥健

今回の先進地派遣では、農作物のオーナー制度を活用した販路拡大、移動スーパーをはじめとした地域内経済の在り方、コミュニティナースについて視察した。

オーナー制度については、明日香村では地域を残したいという思いと、子どもや孫のためという目的で利用されているとのお話があった。明日香村で行われているお米や野菜は、一般的にニーズも高く、また大都市圏である大阪圏から近いという立地もあり、活用されていると思われる。それに対して、横林で栽培されているものは「しいたけ」である。専門家マッチングの際にも話があったが、特に小さい子どもを中心に苦手とする人も多い。また、メインディッシュとなることも限られており、しいたけ自体のニーズが高いとは言えない。そのような中で、いかにオーナー制度をうまく活用してブランディングしていくかはまだまだ課題が多いと感じた。

一方で、川上村での地域循環経済(移動スーパー、コミュニティナース)については、横林で実践できる部分も多いのではないかと感じられた。明日香村も川上村も決して利便性が高いという地域ではなく、特に川上村は山と山に囲まれた山間の地域であり、一般的には不便な地域と言えるが、その地域性はまさしく横林に合致する。川上村でできるのなら、自分たちもできるのではないかと良い刺激になったのではないと思う。横林には地域内商店やコミュニティナースもあり、実際視察を進めるに当たって横林がいかに先進的なことに取り組んでいるかを知ることができた。決して横林が遅れた地域ではないということは、同行した2名にとっても実感できたことではないと思う。

現在、横林では地域コミュニティの拠点となる「横の Base」を整備中であり、ブランドしいたけ「霧源」の販路拡大にも一層注力していくフェーズに入っていく。持続可能な地域づくりを目指す横林を伴走しながら、応援するとともに、1つの成功事例として県内に横展開できるように見守っていきたい。

○プラットフォーム・研修派遣

日付	派遣 RMO	派遣先	視察内容
R7.9.24(水) ～27(土)	かりとりもさくの会	埼玉県横瀬町	農産品加工業者、販売店への視察、(一社)地域活性化センター主催地方創生実践塾「日本一チャレンジする町で持続可能なまちづくりを学ぶ～地域おこし協力隊との連携で地域を変える～」
<p>1 概要</p> <p>(1)行程</p> <p>【1日目】※前泊のため</p> <p>7:30 自宅出発</p> <p>9:25 松山空港発</p> <p>10:55 羽田空港着</p> <p>11:30 羽田空港発</p> <p>13:30 めぐあす(株) (東京都江東区) 視察</p> <p>16:00 チョダグルメショップ (東京都千代田区) 視察</p> <p>18:00 アグリショップ (東京都新宿区) 視察</p> <p>22:30 ホテル着 (秩父市) 宿泊</p>			
<p>【2日目】</p> <p>9月25日(木) 研修会1日目</p> <p>開講式</p> <p>①横瀬町の協力隊の運用についての説明 町役場職員 小峯 佑造 氏</p> <p>②日本一チャレンジする町 横瀬町の取り組み～地域おこし協力隊との連携で地域を変える～ 横瀬町まち経営課 連携推進室長 田端 将伸 氏</p> <p>③地域おこし協力隊～創設の思い出と制度飛躍への視点～ 一般財団法人地域活性化センター 特別顧問 椎川 忍 氏</p> <p>④地域おこし協力隊制度について 総務省自治行政局地域力創造グループ地域自立応援課 課長補佐 藤岡 茉耶 氏</p> <p>⑤地域おこし協力隊と地域づくり～攻めと守りのバランスを考える～ 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授 田口 太郎 氏</p> <p>⑥トークセッション 横瀬町地域おこし協力隊 (株)ENgaWA 鈴木 七海 氏、堀口 万綾 氏</p>			
<p>【3日目】</p> <p>9月26日(金) 研修会2日目</p> <p>①フィールドワーク 横瀬町内(駅前食堂、エリア898、ウォーターパーク、寺坂棚田) アテンド;横瀬町まち経営課 連携推進室長 田端 将伸 氏</p> <p>②他地域の地域おこし協力隊の取組紹介 宇田川 翔 氏、鮫ノ口 いくみ 氏、宮園 由理菜 氏、石井 絵美子 氏</p> <p>③専門相談員の取組紹介 地域おこし協力隊サポートデスク 専門相談員 兼 一般社団法人しまね協力隊ネットワーク 代表理事 三瓶 裕美 氏</p>			

- 地域おこし協力隊サポートデスク 専門相談員 鍋島 悠弥 氏
- ④横瀬町が必要とする人材とは
横瀬町長 富田 能成 氏
 - ⑤トークセッション 質疑応答
横瀬町長、専門相談員、他地域の地域おこし協力隊
 - ⑥お悩み相談タイム

【4日目】

9月27日(土) 研修会3日目

- ①グループワーク、発表
- ②閉講式

(2)内容

【1日目】※前泊

かりとりもさくの会の意向で3先を訪問、モニタリングで同行した。

- 訪問先：めぐあす株式会社(東京都江東区) ご担当：田崎 ゆきの 氏
 - ・かりとりもさくの会が製品製造で協力を仰いでいる会社。
 - ・現在、宇和高校と商品開発中。田崎氏の出身校ということもあり、同校と関係性が深い。
 - ・製品の紹介があった。主にジュースやゼリーを製造。
 - ・渡江では、ゼリーやジュースをどんぶり館に卸し、販売している。小売りはどんぶり館のみで、他はふるさと納税や高く販売できる場所にしか卸していない。
 - ・渡江では学生とコラボした商品も開発したが、500円/本で販売されると高校生のやる気も上がらない。少しでも価値を見出してもらって高く売れないか模索。東京での販路拡大を探る中で、同社と出会った。
 - ・東京では、外国人購入者が日本人よりも多い。また、ゼリーよりもジュースの方がよく売れる。
- 訪問先：株式会社 Local Governance 東京オフィス (東京都千代田区)
ご担当者：マネージャー 大屋 典香 氏
 - ・同社は、島根が本社。東京にある東京オフィスは、「ちよだグルメショップ+A」という店名で、月替わりで全国各地の特産品を取り上げている。9月は長野県高森町と岡山県新見市が舞台となっていた。
 - ・同社は、愛媛県の東京事務所と繋がりがあり、東予のお酒が常時販売されている。
 - ・狩江では、今年もしくは来年の早いうちに同店で商品を取り上げてもらいたいとの考え。同行していた宮園氏より提案書の提出もあった。
 - ・みかん商品は1月が閑散期、2月から3月にかけて品種も増え繁忙期となる。一方、現在の空きは1月となっている。さらに、1月は正月休みもあり、販売期間が短いのも懸念材料。
 - ・横林の「霧源しいたけ」との出店を検討中。
 - ・冬季では、冷凍商品の販売が少し落ちるので、販売商品の精査も必要。
- 訪問先：ルミネアグリショップ (JR新宿駅構内)
 - ・渡江の商品が販売されている店舗を訪問。
 - ・責任者等はおらず同店では挨拶は行わなかった。

【2日目：研修会1日目】

井上横瀬町副町長からの挨拶の後、同町職員田端氏からの事例紹介、地域活性化センター特別顧問椎川氏、総務省、徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授田口氏からの講義、同町地域おこし協力隊のトークセッションが行われ、研修会は終了した。その後、交流会が開催され、参加した。

- 講師：横瀬町まち経営課連携推進室長 田端 将伸 氏
 - ：一般財団法人地域活性化センター特別顧問 椎川 忍 氏
 - ：総務省自治行政局地域力創造グループ地域自立応援課課長 藤岡 茉耶 氏
 - ：徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授 田口 太郎 氏
 - ：株式会社 ENgaWA 鈴木七海氏、堀口万綾氏

- ・初日は、地域おこし協力隊の運用や制度の仕組み等の説明がメインとなった。
 - ・冒頭、副町長からは人口減少が進む小さな町では絶えずチャレンジが必要との言葉があった。
- 横瀬町の協力隊の受入態勢(町民課小峯氏、まち経営課連携室長田端氏)
- ・横瀬町は過疎地に該当。国の制度で協力隊を受入。
 - ・協力隊の発掘で2週間～3ヶ月程度のインターンと2泊3日の体験プログラムを用意。双方ともに地域商社である(株)ENgaWAが実施。
 - ・インターンは学生も含め年間3～19名の参加実績があり、9名が協力隊となっている。
 - ・体験プログラムは年間7～18名が参加している。ともに関東圏(東京、埼玉県内)からの参加者が大半。
 - ・町の未来を変えるのは、外部から人、モノ、お金、情報を取り込むチャレンジしかない。
 - ・民間の町おこしプロジェクトとして「よこらぼ」を立ち上げた。
 - 7年間で230件の提案があり、140件を採択。ただ、大半は伴走支援がメイン。予算執行したのは5件。県外や町外の人为主导している。
 - 横瀬町には、商店街がなく人が集まる場がなかった。
 - 横瀬駅前広場；併設店舗では、横瀬・秩父のものしか販売していない。
 - 寺坂棚田；稲作という本来の用途だけではとても費用分を賄えないほど棚田は効率が悪く、規模も小さい。一方で、観光資源と化しており棚田の消滅は観光資源消滅も意味する。
 - ・少しずつでも挑戦していくことで、縁を増やしている。
- 地域おこし協力隊の創設、思い(地域活性化センター特別顧問椎川氏)
- ・参加者の地域と椎川氏が馴染みのある地域を取り上げ、思い出が語られた。
- 地域おこし協力隊と地域づくり(徳島大学教授田口氏)
- ・地域においてよく発生する問題は「良い提案だけど、面倒くさいよね」よなって結局何も始まらないこと。
 - ・地域では、住民によって温度差があることも多い。
 - これまで核となっていたキーパーソンが徐々に忙しくなり、やがて指示者となることで、新規参加者が単に指示を受けるだけになる。新規参加者は面白みがなく、徐々に地域の活動から足が遠のくことで、地域の組織が崩壊していく…という事例は少なくない。
 - ・町おこしを進める際、地域のキーパーソンさえ押さえておけば良いというわけでもない。実際、住民が一切ついてきていなかった事例もある。
 - ・外部からの人は地域活性化を進める一方、地域住民は安全、防災といったセーフティネットの整備を求めていることが多く、まちづくりの需給にズレがあるケースも少なくない。
 - ・移住者で必要なのは、自治の空白を埋めてくれる人。誰でも受け入れていると、地域と移住者とのギャップが却って広がることもある。
 - ・昔は、地域で住民同士助け合うことで、互いの孤独を埋めていたが、現代はSNSによりどんな人も、どんな地域でも色々な人と繋がれるようになり、孤独感が薄れた。
 - ・ミッションの柔軟性がないことで、機動性が乏しくなっている。
 - ・変わった個人がいても、そこに友人が集まり個人から集団になる。賑わいが出てくると、徐々に地域にも受け入れてもらえるようになる。
- トークセッション(ENgaWAの鈴木氏、堀口氏)
- ・協力隊員として地域に入り、イメージと違ったことは？
 - 馴染めないのではないかと思っていたが、思っていた以上にすぐに地域に馴染むことができた。
 - ・意識していたことは？
 - 相手が話しやすい雰囲気づくりを心がけた。
- 全体を通した質疑応答
- ・よこらぼにおける審査上のフィルタリングはあるのか？
 - 条例の中で審査表を公開しており、審査会も住民等幅広く入れて審査しているので、それが結果的にある程度質を担保している。
 - ・よこらぼの収入割合はどうなっているか？
 - 現状は総務省からの委託がメイン。収益化はまだ道半ば。
 - ・よこらぼの属人性と行政職員の異動による質の担保はどうするのか？

- 田端氏の異動の可能性は高く、そのために準備している。これまで2人態勢だったのを今年度からは3名に増員しており、引継ぎの態勢も構築できている。
- ・横瀬町の観光施策はどのようなものがあるのか？
 - 秩父市と連携した芝桜の活用、ウォーキングイベント、秩父札所巡り等。
 - 風景については、イベントを役場等ではなく、カメラ屋に配布。コンクールで撮影しに来町した人が横瀬の風景を広めてくれた。
 - 冬のイベントでは、温かい飲み物などを販売しない等の工夫もしている。飲み物が売れると収益にはなるが、その分回転率が低下し、渋滞等地域住民に悪影響を及ぼす可能性がある。
- ・経営課という名前の意図は？
 - 単に税金で賄えば良いというものではなく、経営する観点を大事にしたいという意図が町役場にある。
- ・協力隊員がやりがいを見出せるようにするための施策は？
 - 報告会を実施したり、SNSで発信したりしている。

【3日目：研修会2日目】

午前中はフィールドワークが実施され、午後は他地域の地域おこし協力隊の事例紹介、トークセッションが行われた。

- 講師：地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員 三瓶 裕美 氏
 : 地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員 鍋島 悠弥 氏
 : 横瀬町長 富田 能成 氏

○フィールドワーク

①横瀬駅隣の ENgaWA 駅前食堂

- ・元々は西武鉄道の子会社が運営していたが、撤退を機に ENgaWA が事業を承継した。
- ・お土産物屋も含め、横瀬・秩父産にこだわっている。

②横瀬町町役場

- ・建設当初は画期的な作りだった。勢いがあったことを象徴している。

③武甲山

- ・元々海底だった場所が隆起したのが武甲山。石灰石が取れるのは片側だけ。
- ・町のシンボルの山だが、石灰石を取り始めて以降、山肌が削れており、環境破壊と言われることも多い。
- ・環境破壊の一方で、首都圏のコンクリート材の多くを賄ってきたのも事実であり、近代化を支えた象徴とも言える。
- ・石灰石を採掘するため毎日12時半にダイナマイトの発破音が聞こえる。

④寺坂棚田

- ・埼玉県内最大の棚田。彼岸花のシーズンでもあり多くの観光客が来訪。
- ・自然と工場のミスマッチが話題を呼ぶことも多い。
- ・ENgaWAでも1反ほど田を保有し、維持している。もう少し増やせないかとの打診もあり、今後維持、管理する田は増える見込み。
- ・田は観光資源と同時にオーナー制度も活用した収益化にも取り組んでいる。

⑤ウォーターパーク・シラヤマ

- ・整備中の横瀬川河川敷。今後は有料のバーベキュースペースを整備予定。
- ・一部スペースは民間への貸出も検討中。民間による新しいモノを期待している。

⑥ナゼラボ

- ・子供の教育施設。不登校の子供など学校に居場所のない子供たち向けの場所。
- ・どんな子にも社会と繋がる場所が必要との考えでこの施設を整備。

⑦Area898 (オープンエンドフレンドリースペース)

- ・898は「やくば」をデジタル化したもの。
- ・役場は閉鎖的で淡々としたイメージが強いことからイメージ脱却を図って命名した。
- ・元々は農協が使っていた施設。1階はリースペースとなっており、リモートワークができる場所、会議ができる場所などがある。2階は子供向けのスペースと木工の工場がある。

○専門相談員の講義(三瓶氏)

- ・地域おこし協力隊のネックの1つは、当面の収入の維持と地域の人との繋がり。
- ・応募時のメインミッションができないことによる苦悩もあり、悩んだ時期も多かった。
- ・地域おこし協力隊としての活動は苦悩が多かったが、地域の人との繋がりには密にできたことが何とかミッションを最後まで達成できた要因だと思う。

○専門相談員の講義(鍋島氏)

- ・地域おこし協力隊は歩く公共事業のようなもの。
- ・数値上のものではなく、地域の中に入るに当たって実態感のある何かが必要。その何かは人によって異なるもの。
- ・特別なスキルがなくてもできる極一般的なものではない。

○富田町長からの講義

- ・町長は横瀬町出身で、Uターンで町長に就任。
- ・秩父地域全体で町おこしに関する意識を共有できているのは大きい。
- ・どんな人材が必要か？
→町で幸せになる人、幸せになってくれる人が必要。
- ・公務員はモチベーションが低いように思う。
→公務員の大前提は、いかに正確に事務をこなせるか。その+αでレベルが高くなるか否か。最初から高いモチベーションを求めて、色々なことを要求するのは期待しすぎ。

【4日目：研修会3日目】

3つのテーマから各グループで題材を選択し、グループワークを実施。その後発表会が行われた。

○研修会を通して

・3日間の研修を通して、横瀬町の地域資源や地域活性化に向けた取り組み、地域おこし協力隊の地域との関わり方等を学ぶことができた。研修会には、地域おこし協力隊、中間支援組織、行政職員、民間企業と様々なバックグラウンドの方が集まっており、それぞれが抱えている思いが異なる中で良い刺激にもなった。

・横瀬町は町内に大きな商業施設がなく、目玉の観光地も乏しい中で、地域おこし協力隊をうまく活用して地域活性化に取り組んでいる。県内においても地域資源に限られる中でも、地域おこし協力隊の制度を活用している事例は増えている。地域おこし協力隊が事務員として搾取され、本来のミッションができないという事例もあるようだが、地域活性化の1つの策として有効だろう。

・一方で、地域おこしにおける属人化は懸念材料の1つだと思われる。講師の田端氏は、自身の業務引継ぎに向けて、職員を増やし体制を整えていると話されていたが、思いが次の引継ぎ者に伝わるかは、未知数である。地域活性化を持続させるには、属人化から離れ、仕組みを構築する必要があるが、課題は多いと感じた。

- ・地域と伴走支援する組織の一員として、学びの多い研修となった。

2 参加者

かりとりもさくの会 西村 美保 氏

// 宮蘭 由理菜 氏 (西予市狩江地区地域おこし協力隊)

(公財)えひめ地域活力創造センター 地域づくりグループ アドバイザー 植田 祥健

実施の様子



参加者アンケート

RMO名	かりとりもさくの会
参加者(回答者)氏名	西村 美保
Q1 今回の先進地派遣先で学べたものを教えてください。	
<p>地域おこし協力隊(移住者)を受け入れ、定住につなげるためには、双方の理解と歩み寄りが不可欠であると改めて感じました。少々のミスマッチが起こることを前提に受け入れ、しっかりと話し合いを重ねることが大切です。</p> <p>また、行政が深く関わっていることに驚きました。行政が地域との橋渡し役を果たしながら、協力隊の背中を押している姿勢に、強い意志を感じました。</p> <p>さらに、移住者が新たな移住者を支援し、財源確保を行政が担うという分業体制が整っていることにも感銘を受けました。小さなことでもすべて受け入れ、チャレンジさせている姿勢からは、町の器の大きさを感じます。</p> <p>継続できるかどうかは別として、「チャレンジする町」としての姿勢が、移住者にとって大きな魅力となっているのではないのでしょうか。</p>	
Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせると思ったものを教えてください。	
<p>移住者との飲み会や、移住者の得意分野を活かした交流、出身地の郷土料理を使った交流会、さらには移住者同士のつながりの機会など、移住者と地域住民の絆を深める取り組みを実施したいと考えています。</p> <p>また、移住者同士が悩みを共有できる場を設けることで、“安心して過ごせる「居場所づくり」”にもつながるのではないかと思います。</p> <p>そして、移住者にチャレンジを任せるだけでなく、地域住民自身も小さなチャレンジができる仕組みをつくっていくことが、これからの地域づくりには必要なのではないかと感じました。(無理のない範囲で)</p>	
Q3 先進地と比べて、自らの地域での活動の方が優れているものを教えてください。	
<p>3年後に定住してもらう、という意識や準備は私たちの地域の方がしっかりしていると感じた。</p> <p>地域産業や地域資源を収益に繋げる取り組みがもう少しあればいいなと感じた。</p>	
Q4 今回のご感想など自由にご記入ください。	
<p>人口減少が進む地方では、移住者の重要性を改めて感じたとともに、ミスマッチが起こらない仕組みや支援を更新していく必要がある。</p>	

RMO名	かりとりもさくの会
参加者(回答者)氏名	宮藺 由理菜
Q1 今回の先進地派遣先で学べたものを教えてください。	
<p>今回の研修を通じて、協力隊制度について改めて理解を深めることができました。</p> <p>また、地域住民と地域外の人材が抱える課題は想像以上に幅広く、その間をすり合わせ、橋渡し役となる存在の大切さを実感しました。田口先生がお話しされていた「地域住民との意識の温度差」や「住民の声を大事にする活動の必要性」は、特に心に残りました。</p> <p>また、発表の機会をいただけたことで、自分の活動を振り返ることができ、今後の方向性を考える良いきっかけになりました。他地域の協力隊の活動を知ること、自分にはない視点や発想を得る学びとなり、参考になりました。</p>	
Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせると思ったものを教えてください。	
<p>午前のフィールドワークを通して、体験者が感じやすい「暑さ・時間の長さ・先が見えにくさ」といった課題を、身をもって体感しました。これらの気づきを狩江でのプログラムに反映し、参加者が安心して楽しめるような進行や工夫を取り入れていきたいと思えます。</p>	

田口先生がお話されていた、日常から地域の方との身近な関わりをより意識して行動していきたいです！

Q3 先進地と比べて、自らの地域での活動の方が優れているものを教えてください。

収益性を見据えた地域組織づくりや、住民が主体的に活動できるようなサポート体制が体系化されているところは他の地域の方も関心が高い内容でした。特に、活動報告書などの事務作業は事務局職員が担い、アイデア出しや実際の活動は住民が主体となれるよう日常的に声掛けをしていることなど、日々の関わり大切さを改めて実感しました。

狩江は地域の産業や暮らしを体験・観光につなげ、地域外の方との関係性づくりについても、他の地域にはない特色だと思うので私自身も地域づくりの学びを深めていきたいです。

Q4 今回のご感想など自由にご記入ください。

地域外研修に参加したことで、狩江における地域づくりの体制や、住民主体で進められている地域組織の活動の良さを改めて実感しました。官民一体型の取り組みや企業連携についても学ぶことができ、行政が中心となることでスピード感をもって動ける面が多いことも感じました。

また、地域の人とチャレンジする人をつなぐ役割が非常に重要であることを再認識しました。町長が自らチャレンジを促し、役場職員へ意識を浸透させる姿勢が、行政と地域づくりが一体化する土台になっていると感じます。

アドバイザーレポート

(公財)えひめ地域活力創造センター 地域づくりグループ アドバイザー 植田 祥健

参加した研修では地域おこし協力隊をメインテーマとした、協力隊の利活用等について学んだ。

今回の研修地は、埼玉県横瀬町。セメントの製造で有名な秩父市の隣町であるが、町のシンボルである武甲山でも石灰石の採掘が盛んに行われていた。都内で使われるセメント製品の半分ほどを当地で作っており、誇りに思っているとの話があった一方で、地肌が剥き出しになった武甲山の様は環境破壊の象徴としても捉えられ、町が複雑な心境にあることが分かった。

小さな町で協力隊を有効に生かし、街の活性化につなげるには、そこで働く行政マンの柔軟な考え方もまた必要になってくる。町長の話にもあったが、行政マンに求められるのは、革新的な考えではなく、いかに正確に事務をこなせるか。そのような考えの下で長年経験を培ってきた方々に創造的な発想をしていくように伝えていっても、新しいモノを生み出すのはとても難しいのではないかと思う。地域課題を解決する中で、どうしてもネックになるのが属人化だと思う。狩江地区でもキーマンとなる西村氏がいなくなれば、地域がどのようなようになるのか分からない。そうした中で、狩江地区では企業組合を立ち上げ、地域おこし協力隊も巻き込んで地域活性化に取り組む形は良いのではないだろうか。

横瀬町には何も遊ぶ場がないと言われていたが、地域資源としては綺麗な寺坂棚田もあり、初めて行った私としてはどれも新鮮に映った。狩江についても段々畑や宇和海の景色に感動する人は多いと思う。あまりにも当たり前と感じている日常の景色が、外から見ることで貴重な資源になることも多い。そのような視点を地域おこし協力隊に求め、有効に活用していくことが、地域活性化につながっていくのではないだろうか。

○プラットフォーム・地域づくり課題解決勉強会&交流会

日付	テーマ	内容・会場
R7.5.23(金)	中間支援	行政と住民の間にある「中間支援組織」とは 場所：ゆりラボ(久万高原町久万 349-1)

1 概要

(1) 中間支援活動の事例

一般社団法人ゆりラボの活動紹介 13:35~14:05

◇発表者：同社 理事 西野 広恵 氏

- ・ゆりラボの紹介と立ち上げに至った経緯、ゆりラボを通して感じていること、運営に関わる財源の確保等の取り組みについて紹介していただいた。

(2) ディスカッション「ホンネトーク！リアルを語る」 14:10~15:30

◇対談者

一般社団法人ゆりラボ 代表理事 板垣 義男 氏

NPO法人西条まちづくり応援団 理事長 戸田 聖子 氏

- ・中間支援に関することを参加者からの事前質問に沿って、ディスカッションを行った。
- ・参加者からは、事前質問のほかに、役所との関わり方や地域住民へのアプローチの仕方等についての質問があった。

実施の様子



2 参加者アンケート結果

No	全体の満足度	満足度の理由	tilikiへの要望など
1	よかった！	勉強会の内容もランチもとても満足できました！中間支援組織という言葉は知っていましたが抽象的な概念だけでしたので今回の勉強会で、具体的に知ることができ良かったです。また実際に立ち上げや現在運営に携わっておられる方の生の先輩としての声が聞けたのが何よりの収穫となりました！	今回のような取り組みをされている方の声が聞ける距離の近い勉強の開催をまたお願いいたします。
2	よかった！	事前の質問に沿ったトークセッションパートは非常に参考になりました。当事者のリアルな意見を頂戴できて参考になりました！	アンケートが遅くなり申し訳ございません。2回目の参加でしたが前回よりもブラッシュアップされており、非常に良い企画だなと感じました！これかもよろしく願い申し上げます。
3	よかった！	自身が将来に進んで取り組みたいことに対して大変参考になった。	昨年と今回に続けて、実際の取り組みに際して必要な知見をより深く知りたい。
4	もう一歩！	参加できてよかったです！もう少し他の地域のことも聞きたいと思いました。時間的に難しかったと思います。	またこのような地域づくり課題解決についての勉強会がありましたら参加したいです。ありがとうございます。
5	よかった！	実際に中間支援組織運営してきた方たちの体験と振り返り、参加者の悩みを知ることができた。中間支援組織の繋がりが今まで意識したこと無かったが、県内の繋がりが出来たことも良かったと感じています。	積極的に研修に参加し学びながら繋がりや知り合いを広げていきたいです。予定を組みやすいように、年度はじめにざっくりでもよいので何月に何の研修があると予定組んでいるのであれば、お知らせを早めに告知や知らせて欲しいです。
6	よかった！	中間支援組織の取組について、実際活動されている方のお話を直接伺えたのがよかったです。地域で頑張る人たちに対して行政側もきっかけづくりや伴走していく必要性を感じました。また、西予市の地域運営に携わる方の生の声が聞けたことも今後の業務の参考になりました。	今回の参加者された方のお話を、職員研修に取り入れられればよいと考えています。講師との仲介など、ご協力いただければ幸いです。
7	よかった！	中間支援組織についてよく理解ができました。初めて聞く話が多くとても興味深い内容でした。	次回の開催もよろしく申し上げます。お世話になりました。
8	よかった！	中間支援組織のこと、起業に向けてのヒントが聞けました	またこのような研修とうありましたら参加します！
9	よかった！	活動報告：メンバーの明るさ、事業に取り組む前向きな姿に感動しました。地域における課題もプラスに考えていることがすばらしい。 ホンネトーク：参加して最高でした！！	おいおい要望します。

○プラットフォーム・地域づくり課題解決勉強会&交流会

日付	テーマ	内容・会場
R7.11.7(金)	中間支援	地域と人をつなぐ「伴走者」の在り方 場所：阿部邸ハルモニの家(宇和島市)

1 概要

(1)活動紹介 13:35~14:20

- ◇NPO 法人八幡浜元気プロジェクト 代表理事 濱田 規史 氏
- ◇NPOharmoni 代表 松岡 綾 氏、田村 裕子 氏
- ・NPO 法人八幡浜元気プロジェクト及び NPOharmoni の設立経緯や実施している事業、今後の展開等について紹介していただいた。

(2)交流&ディスカッション 14:30~15:35

- ◇対談者 同上
- ・地域を支える「伴走者」として感じている悩み、立ち上げから現在に至るまでに変化していった思いや気付き、課題等を参加者からいただいた事前質問を踏まえて、それぞれの立場からディスカッションしていただいた。

実施の様子



2 参加者アンケート結果

No	満足度	理由	tilikiへの要望等
1	よかった!	地域課題を我がごとと考えて、自分たちの手でよくしていこうという 前向きな声が生で聞くことができ、熱い想いが伝わった。四国中央市にも3名みたいな前向きな方がいれば・・・市議会議員になったりと	チリキ職員のメンバーがよくて、困ったことなど身近に相談できる体制に安心しています。 当市は4月から市長が変わり、地域コミュニティ、NPOなどに力を入れていきます。色々な活動に目を向けて、研修にも参加していきたいと考えております。 また公民館（公民館活動が活発でないため）からコミュニティセンター化へ向けてという声があがっています。（コミュニティセンター化 今流行っていますよね。） 11月20日に内子町で開催されるまちづくり（西予市の自治振興協議会 周藤さん）の話を片隅で3名ほど聞かせてもらうことは可能でしょうか？
2	よかった!	生の声、普段聞けない話が良かった	どんどん機会を作っていたきたい
3	よかった!	貴重なお話を聞かせていただき、今後の地域活動の参考になりました。	これからも、このような勉強会等を継続開催して欲しい。また、私たち地域活動を行う者や組織に対して、いつも手厚いサポートを提供していただき感謝しています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。
4	よかった!	今日は無理を言って追加申し込みさせていただいてありがとうございました。コミセン化によって、職員には集落支援員も位置づけている中で、職員もこれまで正規職員がやっていたことを引き継ぐことが精一杯といったなか、私としてはどういう情報を職員へ提供したり学ぶ機会を作ればよいのかを模索しているところです。その中で、地力の課題解決勉強会はずごく有益な研修だと感じています。個人的な意見にはなりますが、今の自治会には中間支援の役割を担っていただきたいと思っています。今日の2つの事例は、お話を聞いていて頷く場面がたくさんあったので、こういうお話を聴く機会というのをこれから少しずつ重ねていければと思います。ありがとうございました。	県内の良い事例をこれからもたくさん発信していただければと思います。
5	もう一歩!	すみません、完全に自分が悪いのですが、頭が回らずお話し頂いている内容が理解できず、モヤモヤや考えなければならぬような事が増えてしまった気がします。	松山でのランチ会などまた参加したいと思っているので、その時にでもお話できたらありがたいです。今後ともよろしくお願いいたします!
6	よかった!	みなさんのご意見を聞けて学びになりました!	ステキな会場を準備いただきありがとうございました!
7	よかった!	色々な立場のお話をざっくばらんに話し合うことができたから。	
8	よかった!	お互いの話しも交流もできてよかったです!	
9	よかった!	なかなか仕事忙しくて、外に出れていないので実際に来て話しきけてよかったです。NPOや集落支援員、学校 立場の違う方たちと交流できて勉強になりました。	オンライン開催もして欲しい。横のつながり作りたい。
10	よかった!	将来目指したいようなことを実践されているハルモニさんの事例やその思いを聞くことができ、大変参考になった。また聞ける機会があればいいなあ～	①ハルモニさんなど含め、こうした地域づくりされている人や地域がどれくらい愛媛県内にあるのか知りたい。 ②地域づくりに向けたワーク（グループ）ショップなど開催してほしい。 自身も卒隊後の将来として、中間支援的な活動をしていきたいので参考にしたい!
11	よかった!	中間支援組織の在り方や、地域住民とのやり取りを聞いて良かったです。参考となることもあり今後の活動にいかせると思います。	自治会組織の在り方等聞けたらうれしいです。

○プラットフォーム・地域づくり課題解決勉強会&交流会

日付	テーマ	内容・会場
R8.2.7(金)	空き家管理	“惜しい空き家”の行末は？ 場所：SAIJO BASE(西条市明屋敷 131-2)

1 概要

(1) 活動紹介 13:35~14:10

- ◇ 東温市地域おこし協力隊 津田 真翔 氏
- ◇ 一般社団法人リズカーレ 代表理事 安形 真 氏
 - ・津田氏が実施している空き家の実態把握調査や空き家相談等について紹介していただいた。
 - ・一般社団法人リズカーレが実施している事業や事業用空き家バンク、安形氏が関わった空き家プロジェクト等について紹介していただいた。

(2) ディスカッション 14:20~16:15

- ◇ 東温市地域おこし協力隊 津田 真翔 氏
- ◇ 一般社団法人リズカーレ 代表理事 安形 真 氏
 - ・事前質問や参加者が感じている悩みや課題を基に、フロントランナーと参加者を交えてディスカッションを行った。
 - ・参加者からは、事前質問のほかに、自らが持つ情報の共有や事例紹介が行われるなど、活発な意見交換が展開された。

実施の様子





2 参加者アンケート結果

No	満足度	理由	tilikiへの要望等
1	よかった!	ゲストだけではなく、参加者たちのお話を聞いてよかったです。	
2	よかった!	ちょうどよい人数でディスカッションできて楽しかったです。情報もたくさんいただきました。	今回みたいに、また少人数のディスカッションの場を設けてほしいです。
3	よかった!	個人の大切な資産である空き家が、地域課題にもなり直面している 多く問題の勉強になりました	地域の活力に向けて（前向き）の取組のサポートにいつも頭が下がり魅力的なセンターです。
4	よかった!	・自分の地域で取り組める事例がいくつかあった。 ・聞きたい内容ではない所にヒントがあった。 ・前向きに、課題に取り組む皆さんと意見を共有できて勇気がわいた。	・どの地域も良く似た課題をかかえているので、発想の転換でアイデアがあったら事例を教えてください。
5	よかった!	各地の具体的な事例が学べて大変参考になりました。	また同様のイベントがありましたら参加したいです！ありがとうございました！
6	よかった!	行政職だけでなく、様々な立場の方が参加されていて、その声を聴けたことが、学びになりました。	今回は、「空き家」というトピックで、しかも東予で、交流会・勉強会を開催していただき、ありがとうございました。今後も、様々な社会課題をテーマとして、東予、中予、南予と、会場もバランスよく、企画・開催していただけると、ありがたいです。
7	もう一歩!	地域づくりのために、愛媛県内のさまざまな場所で頑張っている方々の声を聞いて、心に励みになったし、共有意識が高まった。	空き家対策の活用だけでなく、処分をしたくて痛切に悩んでいる人たちの声を元に どう解決に導いていけるか、手段や方法を話し合える場があると嬉しいです。さらに、農地の問題も情報交換できると良いです。
8	もう一歩!	空き家の活用についてがメインだったけど、どう処分するかなど、切実な想いについて、どう課題解決していくか、選択肢	将来、相続する予定の人たちへの、啓発活動をして将来への心準備というか、予備知識を学ぶ交流会があると良いと思う。財産所有する事のメリットデメリットを良く知った上で、正しい判断ができるようになる機会が必要だと思う
9	よかった!	それぞれの立場での意見を、いろいろと聞かせて頂きました。解決への道は遠く果てしないけれど、前に進もうと勇気づけられました	①オンラインで開催可能か、検討して頂きたい。②名簿は五十音順よりも、地域別が見やすい。③チラシだけで質問しているので、ややポイントがづれてしまった。フリーディスカッションの素材にするのならば、絞り込む工夫が必要と感じる。事前資料が欲しい。④起爆剤にはなったが、解決が困難だと諦めてしまう人もいそうな気がする。アフターフォローがあると良い。⑤遅くなりすみません。資料一式、役場に置いて帰りました。休み明け出庁して、今提出します。
10	よかった!	町の状況も立場も違うのに共感できることもたくさんありもっと情報交換をしていきたいと思いました。話したりなかったのでもた開催してほしいです。	本日中と書いているのにも関わらず、遅れての回答で申し訳ございません。。。
11	よかった!	いろいろな立場で空き家を考えることができました。今後の活動に活かしていきたいです。	

勉強会&交流会の様子
<p>活動報告では、各フロントランナーが実施している具体的な活動内容についての発表が行われた。各 15 分という限られた時間ではあったが、配布資料による補足や、その後のディスカッションを通じて、活動の実態やノウハウへの理解がより深まった。</p> <p>ディスカッションでは、事前質問を軸に参加者を交えた意見交換を実施した。</p> <p>当初はやや緊張感のある雰囲気であったが、事前質問を基にした投げかけを機に、参加者自身が抱える課題等が積極的に語られるようになった。これに対し、他の参加者がその発言に深く頷いたり、熱心にメモを取ったりする姿がみられ、参加者の関心の高さがうかがえた。</p> <p>また、参加者自らによる情報提供や、他の参加者への直接的な質問なども相次ぎ、能動的な情報共有が展開された。終了後もフロントランナーや参加者同士の交流が続き、実際の活動現場へ見学に赴く参加者の姿も確認された。</p>
今後の課題等について
<p>今回の勉強会&交流会では、周知内容がテーマとフロントランナーの情報のみにとどまったことにより、参加者が期待する勉強会の内容や事前質問の趣旨にばらつきが生じた。</p> <p>今後は、参加者が得られる知見を具体的にイメージできるよう、補足情報を提供する必要がある。</p> <p>また、前回より実施時間を 30 分延長し、定員を 5 名増員して実施したが、活発な意見交換により予定時間を超過する結果となった。その影響で、終盤には一部の参加者に疲労の色が見受けられた。</p> <p>以上の状況を鑑み、質疑応答や交流の質を維持しつつ円滑な運営を図るためには、実施時間 2 時間、定員 10 名での開催が適正であると判断する。</p> <p>なお、今回はフロントランナーの活動拠点周辺の会場を選定したことで、終了後に実際の活動現場へ見学に赴く参加者も見受けられた。</p> <p>現場に直接触れる機会は、参加者の理解を深める上で有効である。したがって、今後の開催においても、講師やフロントランナーの活動拠点、あるいはその近隣施設を優先的に会場として選定していきたい。</p>

○プラットフォーム・地域×専門家マッチング支援

地域運営組織 (RMO)名	横林自治振興協議会(申込者：周藤功治)	
支援メニュー	農産物を通じた地域ブランディング～season2～	
センター担当職員名	(公財)えひめ地域活力創造センター 植田 祥健	
第1回	日時	令和7年8月19日(火)14:10～16:00(2時間)
	講師	cuddle 長尾 愛里 氏 (フードコーディネーター)
	内容	<p>●第1回専門家マッチング(オーナー制度) (参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 cuddle 長尾愛里 ・愛媛県西予市役所政策企画部政策推進課 周藤功治 ・横林地域づくり活動センター 大麦晃裕 ・高橋征敏、蒔苗圭輔、清水みほ、山岡清美 ・センター田村、植田 <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原木しいたけオーナー制度を考える(前半：長尾氏からの講義、後半：オーナー制度に関する議論) ●オーナー制度の事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・価格帯を品種毎に分けて設定。 ・申込口数が多すぎると受入態勢によっては混乱する。 ・オーナー制度の参加者は30代前後の子育て世代や60～70代の孫がいる世代。子ども向けに考えている世帯が多い。 ●オーナー制度のメリット、デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・富裕層、ロイヤルカスタマーの確立。 ・オーナー制度に関する農作物から派生して他の生産作物にも商流が生まれる。 ・収穫前に収益が得られる。 ・受入数をコントロールしないと現場が混乱する。 ・天候による影響を受けやすい。 ・「体験」よりも「収穫物」に焦点が行きがち。 →考え方を換え、会員ビジネスとして見るようにすれば良い ●原木しいたけを商材とする場合の施策 <ul style="list-style-type: none"> ・まずは原木しいたけを知ってもらう必要がある。 ・ふるさと納税や県との連携も行い、制度を確立させていく。 ・ターゲットは予め定めなければ、誰にも刺さらないものにもなりかねない。 マーケットインの考え方で進めてみる。 ●原木しいたけの商流拡大に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット層は40～60代の子育てが落ちついた料理好きな女性、もしくは30代前後の子育てをしており、子どもにしいたけが好きになってもらいたいと考えている女性。 →子どもがしいたけに目を向けるのはハードルが高いのではないか。 ・遊子川のトマトオーナー制度について(田村から)

	<p>→現状は順調ではなく、継続していくことに苦慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口を増やすのが横林の課題(周藤氏) →入口にオーナー制度を活用していきたい。 →40代前後の若い世代、子育て世代に来てもらいたい。 →しいたけで成功すれば、他の作物にも拡大させていきたい。 →健康になる効能もあるので、それも前面に出していきたい。有機JAS認証を受ければ、証明になる。 ・単なる横林のファンからもう一段階深い関係の交流人口を創出したい。 →一定の額以上のオーナーになれば地域の祭りに参加できる。 →ほぼ村民となれる大口オーナーと小口の一般オーナーの2タイプ設定するのも良い。(高橋氏) ・原木しいたけの価値から考えて、最初から安価に設定する必要はない。 ・まずは西予市内在住の方向けに秋～冬にかけて試行してみてもどうか。 →金額は10,000円前後か。イベントの中身は地域特有のものに工夫する必要はある。 ・今後はチラシの作成、SNSの発信準備を行っていく。 <p>●次回予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月頃を予定。テーマは「学生との商品開発」。その際に準備が進んでいればオーナー制度についても話を進める。
--	---

アンケート

RMO名	横林自治振興協議会
支援メニュー	専門家マッチング
支援期間	令和7年7月22日(火)～令和7年8月19日(火)
回答者氏名	周藤 功治
Q1 今回の専門家マッチングで専門家から学べたことを教えてください。	
<p>○「オーナー制度」の深い理解 単なる予約販売ではなく、ロイヤルカスタマー(ファン)の可視化や、生産過程を共有するプロセスとしての意義。</p> <p>○「マーケットインの考え方」 良いものを作ってから売る(プロダクトアウト)のではなく、「誰に(Who)」届けたいかを起点にする重要性。</p>	
Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせる(既に実施している)ものを教えてください。	
<p>○「しいたけ狩り」などによる接点の創出 まずは「しいたけ狩り」などの体験イベントを通じて、原木椎茸と接点を持つ人(母数)を増やす。オーナー制度は、その作物や農園を既に好きでいてくれる「ロイヤルカスタマー」を可視化する仕組みであるため、まずはその土台となるファン層を広げる。</p> <p>○「マーケットイン」の考え方に基づくターゲット設定 「良いものができたから売る(プロダクトアウト)」ではなく、誰に(Who)」届けたいかを明確に決めることから始める。ターゲット層の検討、選定。</p> <p>○「プロセス(生産過程)」の発信 生育状況をWEBで見たり収穫体験をしたりといった「生産過程」を発信することから始める。</p>	
Q3 今後、専門家支援により進めたい地域課題解決や地域事業があれば教えてください。	
○公式ライン等を活用したサービス提供者及び活用者から、色々と教わりたいです。	
Q4 本事業やえひめ地域活力創造センターへのご意見・ご感想など自由にご記入ください。	
○毎年助けていただいて、ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ致します。	

実施の様子



○プラットフォーム・地域×専門家マッチング支援

地域運営組織 (RMO)名	NPO 法人 TE to TE(申込者：山本一人)	
支援メニュー	柳谷地域の自然を「翻訳」して知る地域資源とその活用	
センター担当職員名	(公財)えひめ地域活力創造センター 田村 政幸	
第1回	日時	令和7年7月14日(月)13:00~15:00(2時間)
	講師	一般社団法人をかしや 代表理事 菊間 彰
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初回コーディネート回 ・柳谷小学校で事業内容とスケジュールについて確認 ・8/12 実施場所の現地確認(赤子水辺広場など視察) <p>※対象児童の9人中8人が移住者であるが、柳谷地域に住む人間にとっては、いち早く柳谷の一員として生活して欲しいと思う反面、地域の魅力を移住者の方々に説明するのはかなり難しく感じているため、外部人材を活用して、柳谷地域の魅力を移住者の方々に理解してもらおうプログラムを展開し、柳谷地域への郷土愛を育むきっかけにしたい。</p>
第2回	日時	令和7年8月12日(火)15:00~17:00(2時間)
	講師	一般社団法人をかしや 代表理事 菊間 彰
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとやなだに探検隊(8/11~12開催)の一コマに併せて実施 ・柳谷小学校周辺の自然を楽しみながら学ぶ。 ・会場：柳谷小学校・赤子水辺広場周辺 ・NPO 法人 TEtoTE(集落支援員)山本氏その他、柳谷小児童4名、やなだに保育所園児1名、保護者2名、柳谷小教員5名の12名が参加 ・雨天のため、柳谷小学校校庭でのロープワークや火起こしを通じた自然観察への変更を予定していたが、天候や河原の状況が改善したため、予定どおり、赤子水辺広場で実施。 ・柳谷地域の自然や、身近なもので感じる事ができる地域の特性や特徴を学んだ後、川原での火起こし体験を実施。 <p>※三浦保基金を活用とのこと(交通費のみセンター負担する予定)</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・前日から悪天候であったため、当初予定していた柳谷で感じる自然の美しさを十分に体験できなかったことが悔やまれたが、保護者(大人)も含め、柳谷に住みながら、訪れる機会が無かったであろう姫鶴平での一夜や、山林での樹木伐採作業見学、新たな農産物として期待されるホップの収穫体験と合わせて、広い柳谷地域の自然を身近に体感するイベントとして実施できた。
第3回	日時	第3回・令和7年10月4日(土)10:00~12:00(2時間)
	講師	JMRC 四国(JAF 登録クラブ地域協議会 四国) 運営委員長 金井宣夫
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回終了後、移住者が多数を占める保護者をターゲットに、柳谷の地域活性化の取組みに巻き込むための新たなきっかけづくりについて意見交換を行い、10月上旬に同町柳谷・美川地域で開催される「久万高原ラリー」を軸とした地域振興策について検討することとなる。 ・久万高原ラリーを柳谷地域活性化に活用する基本的な考え方(案)をまとめ、山本氏了承。ファーストステップとして、柳谷・美川地域住民が久万高原ラリーを深く知るためのイベントを企画することとし、柳谷・美川地域住民限定の2025久万高原ラリー観戦・体験ツアーを開催することとなった。(別紙参照) ・R7,8/25に久万高原ラリーの主催者である松山オートクラブの竹下俊博代表を訪ね、同企画について説明し、了承。積極的にご協力いただけることとなった。 ・同日、(一社)久万高原町観光協会を訪ね、事務局次長のジョーンズかおり氏に、久万高原ラリーを柳谷地域活性化に活用する基本的な考え方と、今回のツアーの趣旨と内容を説明。同町の観光戦略の1つとして前向きにご検討いただけることとなった。 ・柳谷・美川地区住民の一部は、久万高原ラリーとの接点が希薄なため、その価値を認識いただくことを念頭にツアーを実施する。 ・ラリーの基礎知識や楽しみ方、林道などの道路を封鎖して開催されるラリーと地域との関係のあり方、ラリーが地域振興に貢献できるポイントなどを、観戦を楽しんでいただきながら学んでいただく。

アンケート

地域運営組織(RMO)名	特定非営利活動法人 TEtoTE
支援メニュー	専門家マッチング事業
支援期間	令和7年 8月12日(火)~ 令和7年10月12日(日)
回答者氏名	山本 一人
Q1 今回の専門家マッチングで専門家から学べたことを教えてください。	
<p>今回の支援を通じ、大きく2つの視点を学ぶことができました。</p> <p>1点目は「地域資源の教育的価値への変換」です。専門家(講師)を招いて西谷の河原で実施した子供たちへの「火起こし体験」では、私たちが普段見慣れている自然環境が、プロの視点と安全管理のノウハウが加わることで、極めて質の高い「野外体験・教育のフィールド」に生まれ変わることを実感しました。</p> <p>2点目は「外部人材(企業)との協働によるイベント運営体制の構築」です。「合格祈願ウォーキング」において県内企業より8名ものボランティアをマッチングいただいたことで、高齢化が進む地域内リソースだけでは限界があった「参加者の安全確保(伴走)」や「給水所等の運営」を安全かつ円滑に行う手法を学ぶことができました。</p>	

<p>Q2 自らの地域での活動にすぐに生かせる(既に実施している)ものを教えてください。</p>
<p>既に本事業を通じて、2つの実践的モデルを地域活動として実施・定着させることができました。 1つは、地元の自然環境(西谷の河原等)を活用した「子供向けの体験型学習」です。専門家から学んだ安全対策と指導手順を踏まえ、単なる川遊びではない「生きた学びの場」を提供することができました。 もう1つは、地域イベントにおける「企業ボランティア受け入れスキーム」の確立です。ウォーキングイベントでの伴走や給水支援など、企業からの参加者に明確な役割(安全確保や参加者へのおもてなし)を担っていただくことで、地域住民の負担を軽減しつつ、イベントの質を向上させる運営体制を即座に実現できました。</p>
<p>Q3 今後、専門家支援により進めたい地域課題解決や地域事業があれば教えてください。</p>
<p>少子高齢化が極まる当地域において、「関係人口の創出」と「次世代への教育(定住・還流促進)」が最大の課題です。 今後は、今回の火起こし体験のような「地域の自然・文化を活用した実践的キャリア教育・野外教育」を、小中高生向けにより高度に展開していくための専門家支援を希望します。 また、地域イベントや集落維持活動において、今回のように県内企業との結びつき(企業ボランティアやプロボノ等のマッチング)をさらに強化し、地域外の多様な人材と協働して「持続可能な地域運営モデル」を構築する事業を進めていきたいと考えております。</p>
<p>Q4 本事業やえひめ地域活力創造センターへのご意見・ご感想など自由にご記入ください。</p>
<p>人口減少と高齢化が進む西谷地区において、地域内のマンパワーだけで新たな取り組みや安全なイベント運営を継続することは非常に困難になりつつあります。 そのような中、貴センターの「専門家マッチング事業」により、質の高い教育プログラムの提供(火起こし体験の専門家)と、頼もしい人的支援(企業ボランティア8名)を同時に結びつけていただいたことは、実務的な助けとなっただけでなく、地域住民にとっても大変大きな励みとなりました。 地域の可能性を広げるこの柔軟で強力な支援制度に、心より感謝申し上げます。今後とも、西谷地区の未来を創るためのご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>

実施の様子



○プラットフォーム・地域×専門家マッチング支援

地域運営組織 (RMO)名	遊子川地域活性化プロジェクトチーム(申込者:水口美鶴)	
支援メニュー	遊子川集落づくり計画書の見直し及び組織再編等	
センター担当職員名	(公財)えひめ地域活力創造センター 田村 政幸・植田 祥健	
第1回	日時	第1回・令和7年6月18日(水)15:00~17:00(2時間)
	講師	NPO法人 Eyes 理事・コーディネーター 光野 達也 氏
	内容	<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 NPO 法人 Eyes 理事 光野達也 ・愛媛県集落支援員・南予移住マネージャー 山口聡子 ・遊子川地域づくり活動センター 金丸博文、水口美鶴(地域任用職員) ・遊子川地域活性化PT 芝陽介、水口優太、中井圭介 ・遊子川地域おこし協力隊 橘高晃則 ・ファーストリポート合同会社 代表 川村徳馬 ・センター田村、池田、植田、愛大社会共創学部インターン生 胡 <p>●初回コーディネート回</p> <p>●第3次遊子川集落づくり計画書の概要説明(中井氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約240人(120世帯) ・高齢化率約60%程度 ・地域の担い手不足が著しい ・計画の形骸化 ・基幹産業は農業(粟、ゆず、トマト(生産額としては主力)) ・トマト農家10軒程度(当初は50軒) ・耕作放棄、変作(トマト→柚子)が増加 ・西予市地域づくり交付金を主たる財源として事業を進めている ・「遊子川もりあげ隊」を組織して事業を実施 ・4事業部に分かれて運営(自治総務部・福祉部・産業部・教育文化部) ・定期的集まっているのは「グリーンツーリズム推進委員会」で、組織図に記載のないもので「ゲストハウス委員会」「自主財源確保委員会」がある。 ・R7年度総会で決議し、R8年度は全員総会にすることになった(人口減少もあるが、遊子川もりあげ隊の活動をよく分からない人が総会に参加したいという希望もあり、全員総会の形にすることにした)。 <p>●4つの部が現計画における具体的な活動内容(光野氏)</p> <p>○自治総務部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行政区の代表者で構成 ・市道、災害避難路、水源・水道施設の管理道路補修等のための原材料(生コン)支給 等 <p>○福祉部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、高齢者への支援がメイン ・「三世代交流しめなわづくり」「もちつき」「トン汁づくり」「独居高齢者訪問(年2回) ・生活支援(買い物弱者対策)として、デマンドタクシー運行 等 <p>○産業部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口拡大、遊休農地活用、PR 活動がメイン

		<ul style="list-style-type: none"> ・景観維持・改善のための草刈り作業(なんでも屋活動) ・交流人口拡大のためのグラウンドゴルフ大会 ・リコピンスによる特産品開発 等 <p>○教育文化部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーン作戦は効果が出ている ・観光施設の看板整備 ・トマトオーナー制度(グリーン・ツーリズム)の運営 等 <p>・がんばるポイントを見定め、外部の力を上手く使うための仕組みづくりが大切かと思う。楽しめる範囲で取組むことが大事。</p> <p>・現行の組織体制は率直に言って大風呂敷で、スリム化が必要か。地縁組織としてマストな活動は部で残しつつ、より取組むべきポイントを、部を跨いだプロジェクトチームで取り組むのが良いのではないか。</p> <p>●第2回の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月中の実施を予定。
第2回	日時	第2回・令和7年10月27日(月) 19:00~20:40(1時間40分)
	講師	愛媛県集落支援員・南予移住マネージャー 山口 聡子 氏
	内容	<p>複数回打ち合わせを挟み、第2回実施</p> <p>(参加者) 愛媛県集落支援員 山口 聡子 氏 遊子川地域づくり活動センター 金丸博文、水口美鶴 遊子川地域活性化PT 芝陽介、水口優太、中井圭介 遊子川もりあげ隊メンバー 約20名 センター田村、植田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に遊子川もりあげ隊の会長より挨拶があり、続いてセンター田村より当センターが遊子川に入った経緯、講師山口氏を紹介。 ・山口氏から簡単な挨拶の後、グループワークを実施。グループは5名前後のグループを4つ作り、今の思いについて思いのままに語ってもらった。 <p>※グループワークでの意見等は別紙参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後に次回は、再度思いを語ってもらうと同時にもう少し組織、行事の見直しを具体的に進めることとして、会は終了した。11月下旬頃実施予定
第3回	日時	第3回・令和8年2月3日(火) 19:00~21:10(2時間10分)
	講師	愛媛県集落支援員・南予移住マネージャー 山口 聡子 氏
	内容	<p>※間に複数回打ち合わせを実施</p> <p>(出席者) 南予移住マネージャー 山口氏 遊子川もりあげ隊 水口氏、金丸氏、中井氏 他13名 センター 田村、池田、植田</p> <p>●導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター田村から次期計画策定に向けた方針を説明。 ・地域を守るために必要な「積み上げ」の事業と、地域の可能性を飛躍させる「掛け合わせ」の事業の2本軸で事業を整理する方向性を提示。

		<p>・上記の事業を具体的にリスト化して説明した後、チューニングが必要な事業としてセンターがピックアップした4事業(ふれあい三世代の集い、やまびこグラウンドゴルフ大会、遊子川のつどい in 松山、しろかわっ子夢大賞)について意義等をグループワークにて整理した。</p> <p>●グループワークまとめ</p> <p>【ふれあい三世代の集い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちが喜んでいる」から続けたい。 ・皆で集まる機会が少なくなっているため、貴重な行事。 ・やることは減らした方がよい。 ・クリーン作戦と合わせたら良いのでは? …等々 <p>⇒やりたいことなので、やりすぎず絞って「つながり」「盛り上がり」に集中。</p> <p>【やまびこグラウンドゴルフ大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊子川の方は参加しているの? ・外向きの行事で地域の方のメリットが分からない。 ・健康増進が目的なら他のスポーツイベントで良くない? ・ザ・リコピンの売上には貢献している。 …等々 <p>⇒「もりあげ隊」の計画からは外して楽しめる範囲で継続していこう!</p> <p>【遊子川のつどい in 松山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集まった先の目的が見えない… ・1年に1回はやった方が「つながる」きっかけにはなる。 ・続けているとふるさと納税につながったケースもある。 …等々 <p>⇒来年度以降どうするかは今年度の試行を振り返り、成果を狙って計画に反映させよう!</p> <p>【しろかわっ子夢大賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が少なくなっている中で継続するのは難しい。回数は減らして良くない? ・子どもたちの本当の夢を大人の事情で変えている実態なら意義は低い。 <p>【全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減らすなら地域住民向けではなく、外向きの事業。 ・農作物はもっと売り込むべき(トマトやしいたけ等) ・効率的に事業展開させる必要がある。 ・当て職はなくすべき ・若い人たちがやりたいことをもっていききたい。 <p>●次回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月下旬を予定。 ・主な議題は、組織の再編。これまでの部会制からプロジェクト制への変更を提示。
第4回	日時	第4回・令和8年2月26日(火) 19:00~21:00(2時間)
	講師	愛媛県集落支援員・南予移住マネージャー 山口 聡子 氏

	<p>内容</p> <p>(出席者) 南予移住マネージャー 山口氏 遊子川もりあげ隊 水口氏、金丸氏、中井氏 他 22 名 センター 田村、桑村、池田、植田</p> <p>●トマトオーナー制度について (水口氏) 〈トマトオーナー制度を受け入れている辻本農園さんの話〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化の影響により、年々トマトの栽培状況が変わってきている。 栽培を始めた頃は、良い状態での収穫が年間3回できていたが、今は2回が限界。 ・現在は、収穫時にトマトの表面が割れることも多くある。そんなに簡単なものではない。 ・以前は、定植時にオーナーの名札を付けていた。最近は出来上がりが不確実で公平性を担保できないことから取り止めた。 ・新種の害虫にも悩まされている。オーナー制度のトマトは原則殺虫剤を使っていないので対応に苦慮している。 ・色々な対応には資金が必要であり、今後収穫祭の場で確実に良質なトマトを提供できるかどうか非常に不安。 <p>●ディスカッション (今の行事の課題、やりたいこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマトオーナー制度やゲストハウスココロん、三世代の集い等に関する意見が出された。 ・真にやりたいことは、遊子川の強みである農作物の栽培、農作物を中心としたイベントの開催等。 ・人口減少により農家も減少しており、昔のようなキャパシティがなくなっている。でも、遊子川の魅力である農作物、特にトマトを売り出したい思いが強い。 ・現状の負担を減らしつつ、皆が無理なく心から楽しめるイベントへのシフトを強く望んでいる。
--	---

実施の様子



○集落サポート人材育成・地域づくりマネジメント講座

実施レポート(総括)

1. 事業概要

人口減少や少子高齢化が進む地域において、集落機能の維持・強化を推進する人材(市町職員、集落支援員等)のマネジメント能力向上とネットワーク構築を目的として、全2回の実践的な地域づくり研修を開催した。

【第1回】過疎地における、まちづくりのトレンドを語りあう

- 日時: 令和7年11月20日(木)
- 場所: 古民家ゲストハウス&バー内子晴れ(内子町)
- 参加者: 14名
- 登壇者: 鍋島 悠弥 氏(総務省地域力創造アドバイザー)、山内 大輔 氏(古民家ゲストハウス&バー内子晴れオーナー)、周藤 功治 氏(西予市横林自治振興協議会)

【第2回】ふるさとを守り、デザインする！地域の夢の描き方～四国中央・新宮編～

- 日時: 令和8年2月19日(木)
- 場所: 霧の森交湯～館(四国中央市)
- 参加者: 41名
- 登壇者: 鍋島 悠弥 氏(同上)、石田 貢三 氏(島根県益田市 地域プロジェクトマネージャー)

2. アンケート結果概要

両回ともに、参加者の9割以上から「よかった！」との高評価を得ており、非常に満足度の高い講座となった。

回数	回答数(回収率)	よかった！	もう一步！
第1回	11名(78.6%)	10名(90.9%)	1名(9.1%)
第2回	14名(34.1%)	13名(92.9%)	1名(7.1%)

3. 参加者の主な気づきと評価(定性分析)

全2回のアンケート自由記述から、参加者が本講座で得た共通の学びや意識の変化を以下の3点に総括した。

① 地域づくりの「目的」と「固定観念」の転換

過度な人口増志向から脱却し、「今いる人々が豊かに生活を送ることが地域づくり」「大事なことは残し、負担は減らして幸福度を上げる」といった、持続可能性と住民の幸福度にフォーカスする視点が育まれている。「たし算とかけ算の在り方」や「肩の力を抜いて無理のないやり方でやる」といった活動スタンスへの共感も多く集まった。

② 現場のリアルな知見と、具体的な拠点づくりへの意欲

登壇者たちの泥臭い体験談や、物件探しの工夫などの実践的な話が非常に高く評価された。第2回では、公民館や小学校といった具体的な施設を軸とした「かくれた拠点づくり」への意欲を示す声が多く挙がり、自身が抱える地域課題の言語化と明確化に繋がっている。

③ コミュニケーションと関係構築の重要性の再認識

「大きなことで多くを巻き込むのではなく、小さな成功体験や地域の信頼を得ることの積み重ねが大切」という本質的な気づきが得られている。多様な属性のステークホルダーとのゆるやかな関係構築や、コーディネートする側の熱意がどう受け止められるかなど、対人関係のスキル(ソフト面)の重要性が再認識された。

4. 次年度以降に向けた課題・要望

本講座を通じて見えてきた、今後の地域づくり支援における参加者のニーズや改善点は以下の通りである。

- 実践的・具体的なノウハウの提供
 - 創業手続き、資金繰り、補助金の作り方(応援してもらう仕組み)など、より踏み込んだ「マネタイズ手法」の学習
 - 外部への効果的なPR方法(SNSやHPの活用)
 - 子育て世代の巻き込み方や、現代のコミュニケーション手法(EQの活用、若者との関わり方)
- テーマやターゲットを絞った事例研究の拡充
 - 「観光地」「海」「山」「へき地」など、条件を絞ったテーマ設定(同じ悩みを持つ者同士の知見共有)
 - 全国各地の多様な先進事例のスライド等での紹介
- ネットワーク構築と交流の継続(最重要ニーズ)
 - 「今日のメンバーでの座談会」「10年後のワークショップ」など、参加者同士の横のつながりを持てる継続的な交流の場づくりに対する強い要望が全編を通じて確認できた。
- 現場の「リアルな障壁」へのアプローチと運営面
 - 「機材(草刈り機や軽トラ)がない」など、やりたくてもできない住民のハードルに寄り添う具体策の検討
 - 講義に集中するための「机とイス」の用意(会場設営への配慮)

5. アドバイザーレポート

本講座は、条件不利地域において現場を牽引する人材に対し、「人口増加」という画一的な目標から「今の住民の幸福度向上と持続可能な仕組みづくり」へと思考を転換させる上で、極めて有効な機会となった。

今後は、ここで醸成された高いモチベーションを具体的なアクションに結びつけるため、「資金調達・マネタイズ」に関するより実務的なスキルの提供と、本講座で生まれた「地域づくり関係者のネットワーク(横のつながり)」を維持・発展させるための継続的なフォローアップの仕組みづくりが求められており、プラットフォーム運営事業とのシナジーを生かし展開したい。

(公財)えひめ地域活力創造センター 副センター長
地域づくりグループ チーフアドバイザー 田村 政幸





第1回の模様(内子町・古民家ゲストハウス&バー内子晴れ)







第2回の模様(四国中央市・霧の森交湯～館)







○元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業





1	
活動日時	令和7年5月 31 日(土) 14:15~20:30
場所	正八幡神社(松山市窪野町 1098)
参加応援団	(株)愛媛銀行 2名
	聖カタリナ大学 6名
	ネコの手 2名
	計 10名
応援内容	第4回松山くぼの町ホテル祭り運営補助
活動の様子 所見など	<p>14 時前に正八幡神社近くの集会所に集合し、主催者から配置や熱中症対策などの説明を受けた後、各担当場所でボランティア活動を開始した。当日は晴天で気温が高く、例年以上の来客が見込まれたが、入念な対策により大きなトラブルなく活動できた。休憩中には地域の方々との交流も見られ、舞台イベントでは応援団の紹介も行われた。その後、20 時に子ども・販売ブース担当が、20 時 30 分に交通整備担当が解散し、全活動を無事終了した。</p> <p>事後評価として、初参加者から集合場所が分かりにくいとの声があり、次回に向けて案内方法の工夫という課題が残った。一方で地域側からは、去年の反省を活かして交通整備用に人数分のトランシーバーをレンタルするなど、ボランティアの負担軽減に最大限配慮したとの話が伺えた。</p>
	   





2	
活動日時	令和7年6月 29 日(日) 8:00~10:10
場所	彩りの丘(西予市城川町高野子)
参加応援団	(株)伊予銀行 3名
	(株)愛媛銀行 1名
	聖カタリナ大学 4名
	ネコの手 2名
	計 10名
応援内容	彩りの丘の草刈り作業
活動の様子 所見など	<p>西予市地域づくり活動センターのオダワラ氏の挨拶と、池野々区事務局の沖氏による作業内容(彩りの丘の剪定や草刈り等)や注意事項(マムシ・熱中症への警戒)の説明を受け、作業を開始した。</p> <p>グループに分かれての作業中、休憩時には地域から飲料が提供され交流を深めた。途中から地域住民も合流したため、作業は予定より早く完了した。閉会時には高川地域づくり会代表の小川氏から、今回のお礼と8月末の草刈り・交流会の案内があった。</p> <p>当日は高温だったが、各自の対策により無事故で終了した。地域側からは駐車場案内やテント設置などの配慮がなされた。また、今回の参加者には地区出身者の家族や主催者の同級生など、地域にゆかりのある者が多く見られた。小川代表からは、高川地域の関係人口増加に向けて、今後も応援団を活用したいとの展望が示された。</p>
	
	
	
	





3	
活動日時	令和7年8月3日(日) 14:00~21:30
場所	中浦公民館(南宇和郡愛南町中浦 830)
参加応援団	(株)伊予銀行 2名
	計 2名
応援内容	中浦夏まつりの会場設営及び販売補助
活動の様子 所見など	<p>会場設営では、販売ブースと休憩所の設営を手分けして行った。一部の調理機材はすでに準備されていたため短時間で完了し、作業後は試食を交えて地域住民と談笑する姿が見られた。</p> <p>販売補助は、各販売ブースに分かれ、販売補助を行った。地域スタッフが少ない状況下でも応援団の補助により販売はスムーズに進行した。客足が落ち着いた19時以降は、応援団も祭りに参加し、地域住民との交流を深めた。</p> <p>また、今回から参加者の識別を腕章から名札シールに変更した。活動中のずれや隠れを防げる利点があった一方で、汗や雨などで剥がれる懸念もあるため、今後の使用については状況を見ながら検討していく。</p>    



4・5・6	
活動日時	令和7年8月 9日(土) 9:00~14:30 8月 10日(日) 9:00~12:00 8月 11日(月) 9:00~11:30
場所	四国中央市立新宮小中学校グラウンド(四国中央市新宮町新宮 448)
参加応援団	聖カタリナ大学 2名
	ネコの手 2名
	計 4名 ※実人数にて計上
応援内容	「第10回新宮夏まつり盆踊り」前日・当日準備、片付け作業
活動の様子 所見など	<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月9日(準備): 参加者は景品の作成やテント設営などの力仕事に分かれて従事。昼には地域からの食事提供があり、スタッフと共に休憩をとった。 8月10日(当日準備): 駐車場へのテント・備品設営、体育館内の放送設備・くす玉設置を実施。地元婦人会の炊き出しをいただいた後、13時半頃に作業を終えた。 8月11日(片付け): 駐車場の備品撤収・運搬、公民館での備品洗浄を行った。雨で濡れたテントは、後日片付けるために柱を畳む処置にとどめた。 <p>【所見・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 良好な点: 地元小中学生も参加しており、地域一体となった運営が窺えた。前日の段階で雨天決行の判断が共有されたため、連絡体制もスムーズであった。また、ボランティアの丁寧な紹介があったほか、今回は体育館開催により櫓(やぐら)組みがなく、身体的負担が少なかった点も好評だった。 祭りの成果: 当日は大雨にもかかわらず、イベント(アイドルライブや阿波踊り等)により体育館が人で溢れるほどの大盛況であった。 今後の課題: 汗や湿気により名札シールが剥がれやすいという問題が発生した。利便性は高いため、今後は貼付場所の工夫など、剥がれないための対策が必要である。
	   

7・8・9	
活動日時	令和7年8月14日(木) 8:30~12:00 8月15日(金) 16:00~21:10 8月16日(土) 8:10~10:10
場所	内子町寺村集落周辺
参加応援団	(株)伊予銀行 1名
	聖カタリナ大学 1名
	ネコの手 2名
	計 4名 ※実人数にて計上
応援内容	寺村山の神火祭り 会場準備、駐車場整理、片付け
活動の様子 所見など	<p>【8月14日:会場準備】 8時30分に保存会倉庫へ集合し、駐車場区画の作成やトイレの清掃・点検を行った。区画は雨で流れないように石灰ではなくPPテープで作成。その後、看板の仕分けや運搬補助、不足分の作成等を行って解散した。</p> <p>【8月15日:駐車場整理】 16時に集合し、2箇所の駐車場整理に従事した。内子高校小田分校では(株)伊予銀行とネコの手が連携して案内と整理を行い、18時30分の満車後は地域住民と交流しつつ待機した。小田小中学校ではセンターが交通整理を担い、19時30分の満車以降は自治センター等へ来場者を誘導した。21時過ぎまで帰宅車両の整理を行い解散した。</p> <p>【8月16日:片付け】 8時過ぎに集合。古い提灯の廃棄、花の木公園でのPPテープ回収、備品の片付け、花火打ち上げ場所の清掃を行い全日程の作業を完了した。</p> <p>【総括】 炎天下での活動だったが、各自の熱中症対策によりトラブルなく終了した。今年度は来場者用駐車場を一部変更したことで、昨年度より作業時間が短縮された。地域スタッフには初参加者や帰省者も含まれており、地域一体となって祭りを支える姿が窺えた。また、応援団は常連・新規を問わず地域住民と積極的に交流を深めており、最終日には保存会代表から来年度への参加要請もあった。</p>
	   

10	
活動日時	令和7年8月30日(土) 7:50~10:10
場所	彩りの丘(西予市城川町高野子)
参加応援団	(株)伊予銀行 2名
	(株)愛媛銀行 3名
	ネコの手 1名
	計 6名
応援内容	彩りの丘草刈り作業
活動の様子 所見など	<p>7時50分に彩りの丘前に集合し、地域の方からの説明を経て10時過ぎまで作業を行った。内容は前回の枯枝剪定、手作業での木の根元の草刈り、桃の木のカズラ除去に加え、事前に剪定された枝の回収であった。参加者同士で声を掛け合いながら進め、地域の参加者は前回より少なかったものの、予定時間内に無事完了した。解散時には地域代表者から謝辞が述べられた。</p> <p>当日は高温だったが、各自の熱中症対策により怪我やトラブルなく終わることができた。また、地域からは駐車場案内やテント設置、飲料や温泉入浴券の提供など手厚い配慮を受けた。今回は応援団のほか、池野々地区に関わりのある大学生等も参加しており、草刈りの人手不足に悩む地域側からは、今後も応援団を活用したいとの声が寄せられた。</p>
	   

11	
活動日時	令和7年10月12日(日) 8:00~16:30
場所	柳谷小学校(上浮穴郡久万高原町柳井川 3542)からごうかく駅(同西谷)の国道440号
参加応援団	(株)伊予銀行 2名
	(株)フジ・アグリフーズ 2名
	ネコの手 1名
	三浦工業(株) 3名
	計 8名
応援内容	地域イベント「第3回 合格祈願ウォーキング」の運営サポート
活動の様子 所見など	<p>台風の影響が懸念されたものの、10月中旬の蒸し暑いなか、大きな事故もなく無事開催された。</p> <p>7時30分に久万高原町立柳谷小学校へ集合した応援団は、事前説明を受けた後「同行班」と「交通整理・安全確保班」に分かれて運営をサポートした。8時の開会式では参加企業の紹介が行われ、全12名のウォーキング参加者が「ごうかく駅」に向けて出発した。</p> <p>道中の休憩所では地元名物「やきもち」の提供や記念撮影が行われた。各自が熱中症対策を徹底した結果、全員がリタイアすることなくごうかく駅へ到着し、八幡神社での祈祷をもってウォーキング自体は終了した。</p> <p>その後行われた交流会は、初参加の企業が既存メンバーに質問したり、同じ企業の別部署間で情報交換が行われたりと、活発な交流の場となった。初参加者からは「本格的なイベントで参加してよかった」との声も挙がっている。最後にアンケート結果や、NPO法人 TEtoTE の活動報告(センター関連事業含む)が共有され、解散となった。</p>
	   

12	
活動日時	令和7年10月19日(日) 9:00~12:00
場所	大久保本谷集落集会所周辺(伊予市双海町大久保甲1320-1)
参加応援団	(株)伊予銀行 4名
	(株)フジ・アグリフーズ 4名
	聖カタリナ大学 1名
	ネコの手 2名
	三浦工業(株) 2名
	計 13名
応援内容	植樹した桜周辺の草引き活動
活動の様子 所見など	<p>8時30分頃に道の駅ふたみ北側駐車場に集合し、9時15分に作業場所の大久保本谷集会所へ移動した。到着後、地域責任者の大崎氏から注意事項等の説明を受け、作業を開始した。</p> <p>作業は分担制で、男性は主に桜周辺の草刈りと目印の竹木設置を、女性は道路の枝葉を撤去する溝掃除を担当した。天候が崩れることなく足場も良好で、蒸し暑さに対しては各自の水分補給と地域からの飲料提供により、熱中症や事故なく安全に進められた。草刈りは2m程の崖沿いでの作業だったが、刈った草木を道路下へ投げ捨てるという地域独自の慣習に、参加者も次第に楽しみながら取り組んでいた。作業中も参加者同士で積極的に交流する姿が見られた。</p> <p>11時頃からはイノシシの捕獲檻の移動を手伝った。その際、仕掛けの不具合を直したことで地域の方に大変喜ばれたほか、参加者も珍しい檻に興味津々であった。11時30分頃に全作業が終了した。一部の参加者は帰宅し、残りのメンバーは集会所での交流会に参加した。振る舞われた中華そばを味わいながら親睦を深め、解散となった。午後に地域のイベントを控える参加者も時間通りに移動でき、全行程が無事に終了した。</p>
	   

13	
活動日時	令和8年3月15日(日) 8:50~12:45
場所	大久保本谷集落集会所周辺(伊予市双海町大久保甲1320-1)
参加応援団	(株)伊予銀行 2名
	川原塾 6名
	ネコの手 2名
	三浦工業(株) 5名
	計 15名
応援内容	桜の植樹、側溝清掃及び伐採竹等の撤去作業
活動の様子 所見など	<p>8時40分頃から道の駅ふたみ北側駐車場に参加者が集合し、8時50分に作業場所である大久保本谷集会所へ移動した。</p> <p>現地到着後、地域住民から作業説明を受け、「桜の植樹(棚田・山中)」と「側溝掃除」のグループに分かれて活動を開始した。</p> <p>桜の植樹作業では、地域より提供された多種の桜の苗木を植え、目印となる竹を打ち込んだ。また、山中の現場へ向かう道が急斜面であったため、安全確保のための足場作りを行った。側溝掃除では堆積した泥や落葉をかき出し、一輪車で廃棄場所まで運搬する作業に取り組んだ。その後、伐採された竹や木材の廃棄作業、植樹した苗木への水やりを行った。</p> <p>11時50分頃から本谷集会所にて交流会が催され、地域から振る舞われた料理を堪能しながら、住民との親睦の時間を過ごした。</p> <p>13時00分からは竹踏み製作やみかんの収穫体験、モルック等の地域イベントにも一部の応援団参加者が引き続き参加し、地域住民との交流の機会となった。</p> <p>今回の応援団派遣を通じ、自力移動に関する事前周知や、学生参加者が実績づくりを超えて地域との継続的な関わりに意義を見出せるような、運営のあり方を模索していく必要がある。</p>
	   

広報周知活動(フライヤー・SNS)

フライヤー

**利用申込
募集**

集落の活動をお手伝いします。

「元気な集落づくり応援団」ボランティア活動とは
 委員では、地域活動の担い手不足に困っている集落とボランティアで
 集落を応援したい企業や団体とのマッチングを行っています。平成22年
 度のスタートから多くの方が参加し、新しい交流が生まれています。
 この事業をきっかけに集落と地域外との継続的な交流へとつながり、集落
 の住民の方にとっても、ボランティアを通して、多様な人とつながることで、
 地域が抱える課題を見つめ直し、いつまでも暮らし続けられる集落づくり
 について考える機会になることを期待しています。

ボランティア活動の様子

「福島のゴミ清掃をお手伝い」 「集落のイベントサポート」

高齢者が多い集落

環境維持やイベントで
応援がほしい

利用者(集落)の声

◎市役所からの紹介で応募、当日は多くの方に応援
に来ていただき、運動会は大いに盛り上がりました。今
でも応援団の方々の交流が続いています。
◎応援団の方のおかげで、勝手にイベントを開催でき
ました。本当に感謝です。来年度も応援団の
皆さんと一緒にイベントを盛り上げていきたいです。

企業・NPO・大学など

ボランティアで
集落を応援したい

応援団の
募集

お祭りやイベントの準備・運営補助
 地区の運動会の運営補助
 清掃、草刈り etc.

原野、65歳以上
 または人口が
 応援内容にも
 地域活力創造

お近くの市役所
 または(公財)
 松山市支所1丁

えひめ地域活力創造センター
 パブリックインフォメーション ☎ 2025年4月14日 ☎

おはようございます。地域づくりグループの池田です。
 今日、お知らせです。
 今年度も「元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業」の申込を随時受付しております！
 この事業は、地域のお祭りやイベント、清掃活動等の地域活動に人手が欲しいに時に申請していただ
 くと、地域活動へのボランティアを希望する団体とのマッチングを行い、ボランティア(応援団)の
 派遣を行います。
 この事業を活用いただくことで、地域活動の維持だけでなく、集落とボランティアとの継続的な交流
 にもつながっています。
 地域での活動を行う際には、ぜひ応援団の活用をご検討ください。
 応援団の派遣申請をお待ちしております！
 ※申請は活動日の60日前までにお願いたします。

SNS

えひめ地域活力創造センター
 パブリックインフォメーション ☎ 2025年4月14日 ☎

おはようございます。地域づくりグループの池田です。
 今日、お知らせです。
 今年度も「元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業」の申込を随時受付しております！
 この事業は、地域のお祭りやイベント、清掃活動等の地域活動に人手が欲しいに時に申請していただ
 くと、地域活動へのボランティアを希望する団体とのマッチングを行い、ボランティア(応援団)の
 派遣を行います。
 この事業を活用いただくことで、地域活動の維持だけでなく、集落とボランティアとの継続的な交流
 にもつながっています。
 地域での活動を行う際には、ぜひ応援団の活用をご検討ください。
 応援団の派遣申請をお待ちしております！
 ※申請は活動日の60日前までにお願いたします。

広報周知活動(応援団通信)

元気な集落づくり 2025.05
応援団通信

福島の復興を支援する活動の一環として、応援団「元気な集落づくり応援団」を組織し、活動の周知を図ります。活動の中心となるのは、被災地の復興を支援する活動です。

今年5月31日(土)に第4回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

当日は、伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校の学生が参加しました。この日は、地元で収穫した「元気な集落づくり」の野菜を調理しました。参加者からは、活動の報告や今後の活動について話し合いました。また、地元産の野菜を使ったお弁当もいただきました。

お祭りの様子



まじっこお祭りゲーム・舞台発表



交通整備



今年5月31日(土)に第4回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

(広報) 元気な集落づくり推進センター www.sjpr.jp

元気な集落づくり 2025.06
応援団通信

福島の復興を支援する活動の一環として、応援団「元気な集落づくり応援団」を組織し、活動の周知を図ります。活動の中心となるのは、被災地の復興を支援する活動です。

今年7月2日(日)に第5回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

当日は、豊後リナ大学校の学生が参加しました。この日は、地元で収穫した「元気な集落づくり」の野菜を調理しました。参加者からは、活動の報告や今後の活動について話し合いました。また、地元産の野菜を使ったお弁当もいただきました。

草刈り活動の様子



草刈り後の様子



草刈り作業



今年6月、草刈り活動を行いました。この活動を通じて、地域の環境を整え、安全な集落づくりを進めています。

今年6月、草刈り活動を行いました。この活動を通じて、地域の環境を整え、安全な集落づくりを進めています。

(広報) 元気な集落づくり推進センター www.sjpr.jp

元気な集落づくり 2025.08
応援団通信

福島の復興を支援する活動の一環として、応援団「元気な集落づくり応援団」を組織し、活動の周知を図ります。活動の中心となるのは、被災地の復興を支援する活動です。

今年7月2日(日)に第6回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

当日は、豊後リナ大学校の学生が参加しました。この日は、地元で収穫した「元気な集落づくり」の野菜を調理しました。参加者からは、活動の報告や今後の活動について話し合いました。また、地元産の野菜を使ったお弁当もいただきました。

お祭り



お祭り



お祭り



今年7月2日(日)に第6回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

(広報) 元気な集落づくり推進センター www.sjpr.jp

元気な集落づくり 2025.10
応援団通信

福島の復興を支援する活動の一環として、応援団「元気な集落づくり応援団」を組織し、活動の周知を図ります。活動の中心となるのは、被災地の復興を支援する活動です。

今年7月2日(日)に第7回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

当日は、豊後リナ大学校の学生が参加しました。この日は、地元で収穫した「元気な集落づくり」の野菜を調理しました。参加者からは、活動の報告や今後の活動について話し合いました。また、地元産の野菜を使ったお弁当もいただきました。

お祭り



お祭り



お祭り



今年7月2日(日)に第7回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

(広報) 元気な集落づくり推進センター www.sjpr.jp

元気な集落づくり 2025.03
応援団通信

福島の復興を支援する活動の一環として、応援団「元気な集落づくり応援団」を組織し、活動の周知を図ります。活動の中心となるのは、被災地の復興を支援する活動です。

今年3月1日(日)に第8回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

当日は、豊後リナ大学校の学生が参加しました。この日は、地元で収穫した「元気な集落づくり」の野菜を調理しました。参加者からは、活動の報告や今後の活動について話し合いました。また、地元産の野菜を使ったお弁当もいただきました。

お祭り



お祭り



お祭り



今年3月1日(日)に第8回「元気な集落づくり応援団」の活動報告会を開催しました。
参加団員数 1団(伊予郡行橋、豊後リナ大学校、ホノの学校)計 21名

(広報) 元気な集落づくり推進センター www.sjpr.jp